竜ヶ岳

藤原岳

ふるさと いなべ市の紹介

一般社団法人いなべ市観光協会／ふるさといなべ市の語り部の会

ねじり橋

片樋のまんぼ

北勢線

序

山紫水明の地、いなべ市の歴史は古く、猪名部郡と呼ばれるようになったのは大化元年（645）と言われ、和銅6年（713）諸国群卿の名を佳き字で著わせとの詔勅が発布され、この趣旨に従って、員弁郡と書き改められました。

平成15年（2003）、いなべ市が誕生しましたが、本年は員弁郡にさかのぼること1306年になります。

先人が長い年月努力を積み重ね、今日のいなべが築かれ、培われたこの地で、私たちは今生活しています。

この素晴らしいいなべ市をたくさんの方々、特に若い人たちに知って頂きたいと思います。美しい自然と郷土の有形無形の文化財を守り育て、躍動する市であって欲しいという願いから、この『ふるさとの紹介』の改訂版を発刊いたしました。

旧版より名所・旧跡・文化財の紹介箇所を増やし、さらに「いなべ市の言い回し」も語数を増やして充実し、より分かり易くなったと思います。

多くの皆さんに、いなべ市を知っていただくきっかけになれば幸いです。

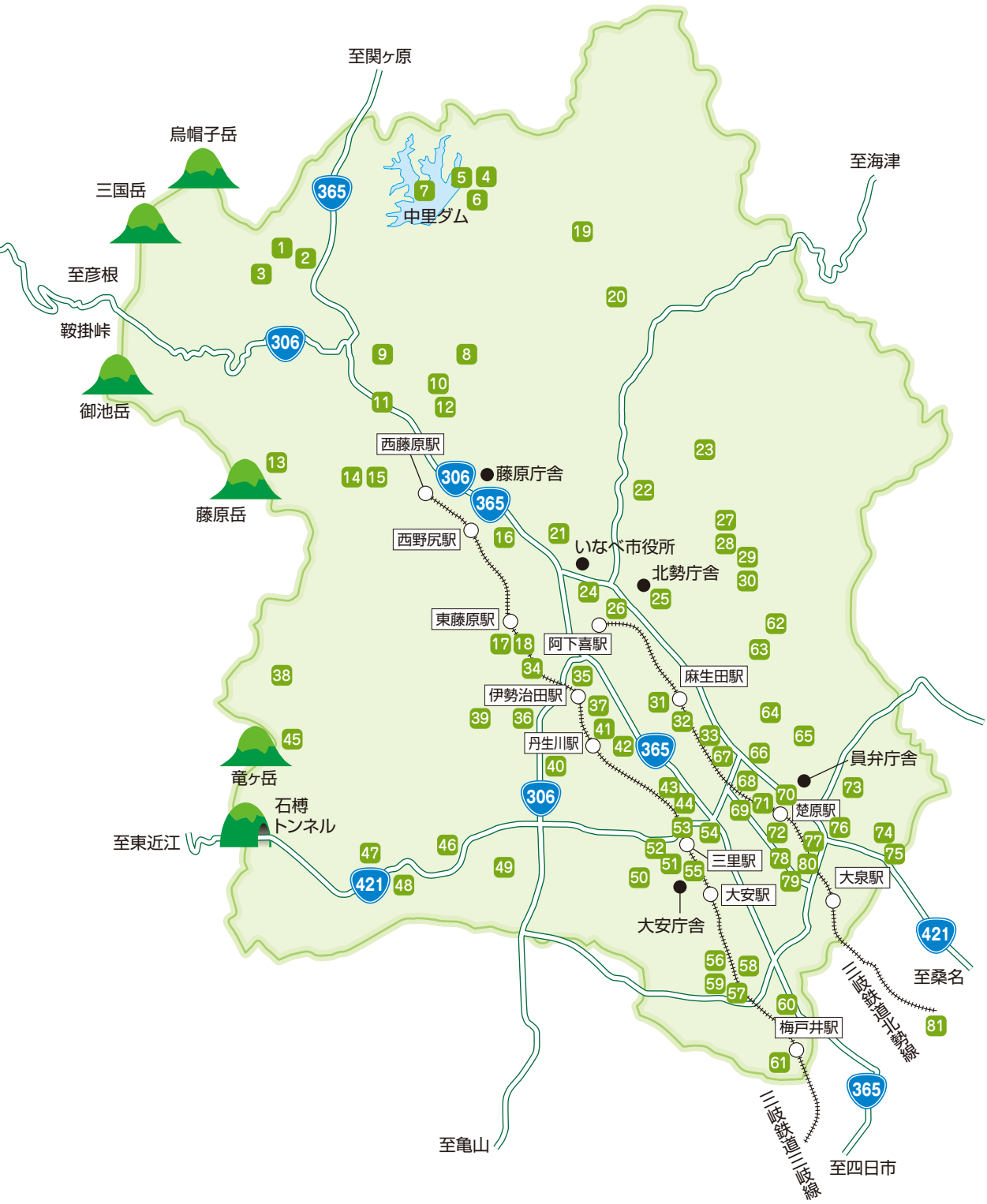
2019年3月　ふるさといなべ市の語り部の会

員弁郡における領地支配図（幕末・明治維新直前）

注：村名は昭和初めの行政村

いなべ市の由来

645（大化1）年 …… 猪名部郡　誕生
713（和銅6）年 …… 員辨郡と改める
1889（明治22）年 …… 員辨郡は22カ村として発足
1907（明治40）年 …… 合併により21カ村に（南石加村と北石加村が石榑村に）
1941（昭和16）年 …… 員弁町　誕生（大泉村・大泉原村・笠田村の合併による）
1954（昭和29）年 …… 東員町　誕生（大長村・稲部村・神田村の合併による）
1955（昭和30）年 …… 北勢町　誕生（阿下喜町・山郷村・十社村・治田村の合併による）
1955（昭和30）年 …… 藤原村　誕生（東藤原村・西藤原村・立田村・中里村・白瀬村の合併による）
1963（昭和38）年 …… 大安町　誕生（石榑村・丹生川村・梅戸井村・三里村の合併による）
1967（昭和42）年 …… 藤原村から藤原町となる
2003（平成15）年　　いなべ市　誕生（12月1日、員弁町・北勢町・大安町・藤原町の合併により新市となる）


至関ヶ原
烏帽子岳
三国岳
至彦根
鞍掛峠
御池岳
藤原岳
至海津
中里ダム
365
306
421
西藤原駅
西野尻駅
東藤原駅
阿下喜駅
伊勢治田駅
丹生川駅
麻生田駅
藤原庁舎
いなべ市役所
北勢庁舎
員弁庁舎
楚原駅
三里駅
大安駅
大安庁舎
大泉駅
梅戸井駅
竜ヶ岳
石榑トンネル
至東近江
至亀山
至桑名
至四日市
三岐鉄道北勢線
三岐鉄道三岐線

目　次

1 長楽寺（篠立）…… 1
2 明行寺（篠立）…… 1
3 篠立の風穴（篠立）…… 2
4 安顯寺（鼎）…… 2
5 鼎塚（鼎）…… 3
6 龍雲寺（鼎）…… 3
7 中里ダム（鼎）…… 4
8 春澄卿宅跡（長尾）…… 4
9 善長寺（山口）…… 5
10 白瀬城他（本郷）…… 5
11 巡見道 …… 6
12 円琳寺（本郷）…… 6
13 藤原岳 …… 7
14 聖宝寺（坂本）…… 7
15 鳴谷神社（坂本）…… 8
16 春日神社（下野尻）…… 8
17 明源寺（東禅寺）…… 9
18 多志田拱渠（東禅寺～一之坂間）…… 9
19 東林寺（川原）……10
20 田辺城址（田辺）……10
21 畑田井水（瀬木）……11
22 勝泉寺（西貝野）……11
23 宝林寺（東貝野）……12
24 桐林館（阿下喜）……12
25 見性寺（阿下喜）……13
26 一本松灯篭（阿下喜）……13
27 平野神社（平野新田）……14
28 大辻神社（大辻新田）……14
29 行順寺（南中津原）……15
30 大榧、寝榧（南中津原）……15
31 六把野井水（麻生田）……16
32 萬笑院（麻生田）……16
33 麻績塚古墳、久保院八十八ヶ所道（麻生田）…17
34 賀毛神社（垣内）……17
35 圓福寺（東村）……18
36 治田城址（麓村）……18
37 安行寺鐘楼（中山）……19
38 治田鉱山（新町）……19
39 甘露寺（新町）……20
40 鴨神社（丹生川上）……20
41 金剛山持光寺・大正図書館（丹生久下）…21
42 おかげ参り旅立ちの地（久下）……21
43 片樋のまんぼ（片樋）……22
44 大神社（片樋）……22
45 竜ヶ岳 ……23
46 石部神社（石榑南）……23
47 宇賀渓（石榑南）……24
48 爪引地蔵（石榑南）……24
49 照光寺（石榑南）……25
50 両ヶ池（平塚、石榑東）……25
51 郷土資料館（平塚）……26
52 西岸寺（平塚）……26
53 了円寺（高柳）……27
54 的場跡（高柳）……27
55 大井田井水（大井田）……28
56 光蓮寺（門前）……28
57 八風道と八風街道 ……29
58 笠間小学校栴檀の木（門前）……29
59 比丘尼塚（南金井）……30
60 日置てい女 ……30
61 土生神社（梅戸）……31
62 通念寺（市之原）……31
63 コノハナザクラ（坂東新田）……32
64 刻限日影石（笠田新田）……32
65 員弁大池他（楚原）……33
66 観音堂（笠田新田）……33
67 覚通寺（上笠田）……34
68 八幡神社（下笠田）……34
69 東光寺（下笠田）……35
70 楚原神社他（楚原）……35
71 ねじり橋（下笠田）……36
72 眞養寺（楚原）……36
73 槇ノ木（畑新田）……37
74 岡古墳（岡丁田）……37
75 大谷神社（東一色）……38
76 地蔵堂他（大泉新田）……38
77 大泉新田神明社（大泉新田）……39
78 金井城址（北金井）……39
79 春日神社（西方）……40
80 大谷神社 長宮（大泉）……40
81 三岐鉄道北勢線 ……41
いなべのことば …… 43～53

1 釈迦涅槃図のある 永明山 長楽寺〈藤原町篠立4071〉

曹洞宗　御本尊　釈迦如来

寺伝は古く養老6年（722）時の禅宗の高僧・泰澄大師によって、拘留孫岳の仏尾に、観音堂を安置したのが寺の始まりと言われている。

本堂には、本尊の釈迦如来と何体かの仏像があり、その中にある御木像は延享元年（1744）に、曹洞宗永平寺末寺として開山された黙山和尚である。

寺宝として有名なのが画家古庵旦水の釈迦涅槃の画で、横1.8m、縦2.6mもある大きなものである。

本堂後方の高台には、明治末期に移されたと言う観音堂がある。往古は山上にあったがこの地は雪も多く不便であった為、現在の地へ移されたと言う。この観音堂には秘仏として馬頭観世音が祀られている。

また、境内の石段左脇の巨木モミの木(幹周囲4.4m・樹高35m)が有名である。

拘留孫岳の中腹には龍王さんの大杉（いなべ市指定天然記念物）がある。

交通アクセス　三岐線西藤原駅より車で15分

2 蓮如上人玉眼の御木像を安置 転輪山 明行寺〈藤原町篠立766〉

真宗大谷派　御本尊　阿弥陀如来

当寺は、長元年間（1028〜1037）比叡山延暦寺から来た僧、安慧が阿弥陀如来像を安置し、転輪山真無量寺という天台宗の寺として仏尾の地に開かれた。現在の寺号は延宝元年（1673）5世了恵の時に賜り、宝暦9年（1759）現在地に本堂が建立された。寺宝と伝わる蓮如上人玉眼の御木像は、宝徳年間（1450年頃）この地より京都に出た伊勢屋権八が蓮如上人のお共をして北国、関東を巡回し、上人が山科の地に本願寺を建立されたときも権八は尽力した。その後、権八は出家して名を敬信と名のったが、歳すでに八十余歳を過ぎ、上人のお供はかなわず、別れに際し上人は、ご自分の眼鏡を刻み込んで、眼としたご自身の木像をお作りになり「これを私と思いなさい」と別れを惜しむ敬信にお授けになられた。敬信の子孫、伊勢屋利平の時、当寺八世了海が譲り受け、それ以後明行寺の寺宝として大切に安置されている。

毎年5月に行なわれる遊学祭で特別公開される。

蓮如上人玉眼の御木像

交通アクセス　三岐線西藤原駅より車で15分

3 神秘な空間　篠立の風穴〈藤原町篠立〉

三重県指定天然記念物

篠立の風穴は、鈴鹿山脈北部の三国岳を源流とする員弁川の三国谷左岸に開口する。篠立付近には砂岩・粘板岩・輝緑凝灰岩のほか、古生代の熱帯の海に堆積した石灰岩が広く分布している。風穴はこの石灰岩中に見られるほぼ水平の横穴型の石灰洞である。

高さ約6m、幅約5mの開口部は、河床から約10mの位置にあり、ほぼ東西にのびる1階の洞穴の長さは約177mである。入口から100m付近で枝洞があり、2階となって70m続いている。洞内には鍾乳石・石筍・石柱・イボ状の石灰華などが見られ、この洞内だけに生息する真洞穴性のゴミムシ類やヤスデ類をはじめ、約80種の生物が生息している。

お問い合わせ／いなべ市教育委員会 生涯学習課
TEL 0594-86-7846

交通アクセス　三岐線西藤原駅より車で15分

4 第59代宇多天皇を祖とする宇多源氏の開基 玉林山 安顯寺〈藤原町鼎1152〉

波に乗る龍

天女

真宗大谷派　御本尊　阿弥陀如来

承安の頃（1171〜74）三国岳に盗賊熊坂長範の残党が住み、村民に害を加えていたので、近江の国から佐々木清長が来て一族と共に残党を征伐した。次男である安顯は深尾谷に住み深尾姓を称していたが、承久3年（1221）に亡くなり、その子了弁が清司原に道場を建立し、父祖の菩提を弔い佐々木姓を復している。文明3年（1471）蓮如上人より絵像と六字名号一幅を賜って真宗に帰依し玉林総道場を開いた。元禄3年（1690）本山から安顯寺の次号を下付される。

現在の本堂は文政10年（1827）建立、欄間は美濃の彫師佐竹民蔵義寄作で、正面は「波に乗る龍」左右に「迦陵頻伽」「天女」を配し、美濃以外では作品がなく貴重である。天文23年（1554）美濃国駒野城主高木貞政公の正室「歡林院殿松岸道喜大姉」の位牌が安置されている。

交通アクセス　三岐線西藤原駅より車で25分・北勢線阿下喜駅より車で30分

5 いなべと薩摩との縁　鼎塚〈藤原町鼎〉

慶長5年（1600）9月15日、現在の岐阜県関ケ原において、関ケ原の戦いがあり、東軍方徳川家康が圧勝しました。

西軍の諸将は敗退、最後まで戦った島津軍は取り残されましたが、残兵約300名で円陣を組み捨て身の「車返し」という戦法で主君島津義弘を守り思いもよらない敵中突破を敢行しました。

別隊（しんがり）は身を挺し敵を食い止めながら牧田より時村へ、本隊は戦場を離脱し、養老山地を南下し駒野より山越えで二之瀬、田辺、川原を経て鼎を通り、先の別隊と16日朝、時村で合流しました。

五僧、保月より多賀、水口を抜け大阪へ到着、1500名いた兵は100名たらずになり多くの戦死者を出しましたが堺港より薩摩へと帰還した日本史に残る有名な歴史があります。

鼎塚はその際に討ち死にした島津隊の戦死者を、地元民が懇ろに弔った塚であると伝えられています。

昭和35年より毎年、地元薩摩の小、中、高生の「関ケ原戦跡踏破隊」が夏休みに祖先の背進の路を訪ねて歩かれ、近年より鼎塚にも立ち寄られます。

交通アクセス　北勢線阿下喜駅より車で20分

6 履はき如来を安置する　大清山　龍雲寺〈藤原町鼎1168〉

臨済宗妙心寺派　御本尊　阿弥陀如来

文明11年（1479）東陽英朝開山。寛永年間（1624～1643）愚堂国師宝鑑が中興。

本堂に安置する阿弥陀如来は履をはき、俗に履はき如来と言う。本堂の正面にある山門は高楼造りで梵鐘がある。

第17世・佳山真乗禅師の時、前田普羅・青木月斗と言った俳人が、この寺をたびたび訪れ、名句を残している。

また、佳山眞乗師自身も佳山の号で、俳人としても有名で多くの作品を残している。

立春の
　老松雪を　ゆり落す
<長屋　佳山>

道おしへ
　藤原嶽も　遠ざかる
<前田　普羅>

交通アクセス　三岐線西藤原駅より車で20分

7 アースダムでは国内1位　中里ダム(鈴養湖)〈藤原町鼎〉

旧深尾地区の離郷の碑

中里ダムは昭和52年（1977）に、産業の発展及び人口の集中する北勢地域に、水の安定供給を図る事を目的に造られた。

貯水量1600万トン、堤体積297万㎥、堤の長さは985m。中里ダムの堤体積は、アースダムの中で国内第1位を誇る大規模なダムである。アースダムとは、主に土を積み上げて築造したダムの事で、中里ダムは「傾斜コアゾーン型フィルダム」と呼ばれ、日本有数のダムである。

中里ダム全景

ダム建設にあたり、旧深尾地区の方々が大切な土地を提供して下さった。

中里ダムは自己流域をはじめ、間接流域として岐阜県牧田川・三重県員弁川流域の3つの渓流から導入している三重用水の主な水瓶である。

ダム完成後、平成16年（2004）に公募で鈴養湖と名付けられた。

交通アクセス　三岐線西藤原駅より車で20分

8 天皇に仕えた　春澄善縄卿宅跡〈藤原町長尾977〉

春澄卿は、桓武天皇の延暦16年（797）長尾に生まれ、淳和・仁明・文徳・清和四代の天皇に仕えて文章博士となり、天皇の侍講（天皇に学問を講義する）にまで栄進した。

時の右大臣・藤原良房らと共に、勅令を奉じて撰修した「続日本後記20巻」は、14年にわたる苦心の大作で六国史のひとつとして、現在もなおその評価は高い。

また、春澄卿の娘治子は、歌人として「古今集」などにその名を留めている。

現在、記念碑が建てられている処には、かつて春澄社があったが、明治41年（1908）に現在の猪名部神社に合祀されている。

なお、この宅跡の北側には、100m余の馬場跡が残されている。

春澄卿記念碑

交通アクセス　三岐線西藤原駅より車で15分

9 山口城跡・上平野城跡 巡見史の本陣 龍華山善長寺〈藤原町山口1333〉

旧本陣の玄関（善長寺庫裏玄関）

山口城跡は山口玉垣内にあるので玉垣城跡ともいう。山口・善長寺伝によれば、善長寺の祖・藤田正澄が北畠具教に仕え、美濃の土岐氏が伊勢へ侵攻するのを抑える役割を担ったという。明応2年（1493）に山口城を築き守りについたが、藤田東馬之亟善玄とその子善澄は天正2年（1574）6月に織田信長に攻められ、玉垣城にて討ち死。善澄の子が善長で、出家して善長寺を開いた。近くの墓地には、乳母が城主の幼子を抱いて難を逃れたと言う玉乳母の墓がある。山口城址と次の上平野城跡は二つとも昔の面影がよく残されている。

関札

山口上平野には上平野城跡がある。この城は玉垣城の家老・梅山氏の出城として築城されたものと伝えられている。城の麓には、現在も城主の墓が残されている。

善長寺は江戸時代になって、巡見使が員弁を巡見した時には、本陣として宿泊した歴史がのこっていて、現在も対面の間として四間続きの座敷などが保存されている。

交通アクセス 三岐線西藤原駅より車で15分

10 白瀬城跡と本郷城跡〈藤原町本郷〉

白瀬城跡

白瀬城跡は本郷の北、員弁川の北岸、通称・大蛇ハゲと呼ばれる中森山にある。

戦国時代の亨禄2年（1529）頃、近藤弾正左衛門が居城していたが、亨禄4年（1531）4月25日の夜に、治田城主治田山城守が攻撃し落城した。

昭和57年と昭和63年に発掘調査が行われた結果、多くの遺物が発見されている。

一方、本郷の南の通称岡山には、本郷城跡があり、別名檜山城とも言う。

城主は、奥岡万多丸と言い万多城との名もある。伝説に城郭は敵軍に攻められ落城し、その後城主は出家し光徳院と言う寺を開いた。これが、後に現在の本光寺となったと伝えられている。

交通アクセス 三岐線東藤原駅より車で15分

11 いなべの巡見道

いなべの人にとって「巡見道」は、国道306号旧道のことを指しています。道程は亀山を起点に水沢～菰野～石榑～治田～東禅寺～山口～古田そして関ヶ原までの約60kmです。

巡見道は、三代将軍家光が寛永10年（1633）に始めた、諸国各藩の治安や産業及び暮らしぶりなどを査察し幕府に情報をあげるための巡見使が通った道のことです。全国で19回もの派遣があり十二代家慶の天保9年（1838）まで続きました。伊勢の国では10回の実施が確認されています。

巡見使は2千石以上の旗本を筆頭に正副巡見使3名を置き、総勢100名規模の大所帯です。これらを迎える各藩当該地では街道整備はもとより、質疑応答の模擬練習、宿や食事にお土産等（旗本用から下級武士向まで）大変な労力と費用を費やしたそうです。

いなべでは、藤原町山口の善長寺の庫裏が本陣となり、上がり縁から床の間まで各部屋の段差がある座敷は当時のまま現存し、武士階級の厳しさがうかがえます。

天保年間「1830～1844」巡見道見取り図･個人蔵

12 梅鉢の家紋を賜っている　青龍山（せいりゅうざん） 円琳寺（えんりんじ）〈藤原町本郷1024〉

真宗大谷派　御本尊　阿弥陀如来

円琳寺は、もとは天台宗であったが、天和（てんな）2年（1682）、本山4世常如上人の頃に、真宗大谷派の寺として改免され、桑名の本統寺与力の寺となった。

桑名藩主・久松松平家の知遇を得て、松平候の家紋「梅鉢」を賜り、その使用を許された。

円琳寺は代々学者として有名な人物が多く、特に赤心校（せきしんこう）を開き郷弟（ごうてい）の教育に尽くし「猪名部神譜（いなべしんぷ）」の大作を世に送った梅田春濤（しゅんとう）先生、その子香樟（こうしょう）先生も漢学者として有名で、町内には碑文が多く残されている。梅田学僧親子の志は、近藤杢（もく）先生にも引き継がれた。現在のいなべ市の郷土史研究においても、その源を作られたと言っても過言では無い。

寺の西に春濤先生の碑（大賀賢励撰（おおがけんれい）・市川進書）と赤心校の跡がある。

青龍山円琳寺

春濤先生の碑

交通アクセス　三岐線東藤原駅より車で10分

13 全国屈指の花の山　藤原岳〈三重県、滋賀県〉

鈴鹿国定公園

藤原岳は鈴鹿山脈の北部に位置し、標高1140mの頂上部は特有の準平原をなすカルスト地形で、石灰岩、化石の山と呼ばれている。

この山が形成されたのは古生代、今からおよそ2億数千万年前の時代である。

藤原岳は、1年を通じて花が楽しめる自然の宝庫で、春は藤原岳のシンボルとも言えるフクジュソウや、キンポウゲ科を代表するエフェメラル（春の妖精といわれる春植物群）が人々を魅了する。

夏はオオイタヤメイゲツ林の緑の濃い木々が美林を呈し、秋はガマズミ類の真赤な実と紅葉が楽しめる。

冬は頂上一面が白銀の世界となり、輝く霧氷や樹氷が見られる。

藤原岳は登山者を年間を通じ楽しませることで有名である。

フクジュソウ

セツブンソウ

藤原岳山頂付近

交通アクセス　三岐線西藤原駅より、登山口まで徒歩5分。山頂まで2.5時間

14 藤原期の庭園　鳴谷山（めいこくざん）　聖宝寺（しょうぼうじ）〈藤原町坂本981〉

本堂前に建つ句碑

香木も　立つ萬緑の　大斜面

<山口誓子>

臨済宗妙心寺派　御本尊　十一面千手観音菩薩

聖宝寺は、平安初期の大同2年（807）に天台宗の開祖・伝教大師最澄大和上（だいわじょう）により開創された。

元亀・天正の戦国時代、織田信長の兵火の為に多くの社寺が焼失した。その際に聖宝寺もその災厄を免れず焼失した。その後、江戸時代中期万治元年（1658）、禅の巨匠・大圓宝鑑愚堂国師（だいえんほうかんぐどうこくし）大和尚によって再興されたのが現在の禅寺聖宝寺である。

境内の庭園は、藤原期の造庭と伝わっていて、古雅の風情甚だ賞すべきものがある。

また、境内南には鳴谷滝があり、昔から景勝地として訪れる人は多い。

交通アクセス　三岐線西藤原駅より 徒歩15分

15 鳴谷神社と曳山車行事 〈藤原町坂本81、82〉

いなべ市指定民俗文化財
御祭神　大山咋命 他8座

坂本の曳山車
（いなべ市指定有形民俗文化財）

鳴谷神社は、藤原岳登山口の近くにあり、伝統と歴史のある神社である。

平安時代の大同2年（807）伝教大師が、現在の聖宝寺の前身である観音堂を建立された時、その守護神として祀られたと伝えらている。

この神社の秋の祭礼には、大貝戸と坂本からそれぞれ山車が出され、多くの参拝客で賑わう。その際に坂本の山車の二階で演じられる囃子は、いなべ市の無形民俗文化財に指定されている。また、市の有形民俗文化財に指定されている坂本の山車は、滋賀県の長浜の山車を模して、明治15年頃長浜の宮大工・桐山弥七が製作した。

また、境内は巨木が多く、いなべ市指定天然記念物の社叢（杉が6本・イロハモミジ、モミ、ツブラジイ、イチイガシが各1本ずつ）がある。

交通アクセス　三岐線西藤原駅より 徒歩10分

16 下野尻・春日神社の獅子舞行事 〈藤原町下野尻951〉

いなべ市指定無形民俗文化財
御祭神　少彦名命　他9座

春日神社の獅子舞は、いなべ市の無形民俗文化財で、300年以上の歴史があると言われている。現在使われている獅子頭は、平成21年に新調された。自治会館で保存されている旧獅子頭は嘉永2年（1849）に作られたもので、およそ160年間大切に使われてきた貴重なものである。獅子舞は春と秋を表す「狂乱牡丹の舞」と「菊の舞」の2つの舞があり、豊作と地域の安全を祈願し行われている。

これらの舞は、四方から襲ってくる災厄を追い払いながら、毛繕いをしたり眠ったりと、動物の自然の仕草を取り入れた素朴な舞である。囃子は、絣の着物に花笠を付けた可愛らしい子供達が、大人の笛に合わせて太鼓や鉦などの楽器を奏でる。天狗は獅子に寄り添い舞の案内や手助けをする。

勇壮かつ優雅な獅子舞は、いつしか幽玄の世界へと引き込まれるような心和む秋の行事である。

交通アクセス　三岐線西野尻駅より 徒歩20分

17 三幹立の菩提樹…足下山（たしたざん） 明源寺〈藤原町東禅寺562〉

浄土真宗本願寺派　御本尊　阿弥陀如来

平安時代初期に伝教大師最澄により建立された、足下山円頓院東禅寺（天台宗）を起原としている。

延慶3年（1310）には、親鸞聖人直弟子（じきでし）である高田門徒（現在の真宗高田派）の顕智（けんち）上人が東禅寺にて専修念仏を布教。一体の阿弥陀如来像を残された。明源寺の庫裡お内仏、御本尊の阿弥陀如来像である。その後、天台宗東禅寺は衰退し、本願寺教団は第8代蓮如上人により大きく飛躍した。天文6年（1537）本願寺第10代証如上人下附（かふ）の阿弥陀如来像がある。江戸初期の本願寺東西分裂に際しては、西本願寺に属し正保4年（1648）足下山明源寺と寺号を正式に頂いた。しかし、文政6年（1823）の火災により本堂は消失。嘉永元年（1848）に本堂を再建し、記念樹として菩提樹の木を植えた。この菩提樹が、根元から三つ又に幹別れし、毎年6月20日前後に開花し、甘い香りを境内に漂わせている。

阿弥陀如来像

菩提樹の開花

交通アクセス　三岐線東藤原駅より徒歩10分

18 先人の苦労が偲ばれる 多志田拱渠（きょうきょ）（メガネ橋）〈東禅寺～一之坂〉

完成当時の写真

工事なかばの記念撮影

多志田拱渠は、藤原町と北勢町の境を流れる多志田川に架かる、2連の大きなメガネ橋である。昭和2年、小野田セメント藤原工場の建設計画がたてられた。昭和4年、三岐鉄道の軌道建設工事が開始、同年多志田拱渠、県道の築堤工事が保良谷（ほらたに）で始まった。当時の工事は、ツルハシ、スコップ、ジョレン等で山を掘り、すり鉢状の深い谷底で川を堰き止め、木枠を組むという大変なもので、炎天下、吹雪の中、寸時の油断も許されない危険な重労働だった。2本のコンクリート製トンネル部完成後は突貫工事で、小野田セメント工場近くの山から、土砂をトロッコ20台で運び谷を埋めた。併せて巡見道のトンネル工事も始まり、土砂は治田の山からも運ばれ、長さ216m、高さ35m、幅83mの工事が約2年の歳月を費やし、鉄道敷地と県道が段差をつけて区分され、昭和6年（1931）に完成した。昭和45年（1970）には産業関連道路もでき、道路に挟まり三岐鉄道が谷の上を走っている。

画像出典先「三岐鉄道50年の歩み」　発行：三岐鉄道株式会社

交通アクセス　三岐線東藤原駅より徒歩15分

19 宝篋印塔がある　日出山 東林寺と白滝〈北勢町川原2913-1〉

高さ22mもある白滝

宝篋印塔 三重県有形文化財

臨済宗妙心寺派　御本尊　聖観世音菩薩

養老山地の北の麓にある東林寺の開山は神亀年間（724～729）で、開祖は行基菩薩と伝えられている。

御本尊は奈良時代（710～794）に作られた聖観世音菩薩で、元旦と縁日の年2回しか扉が開かれない。

本堂には円空作、如意輪観音思惟菩薩像がある。

本堂の東には高さ22mの白滝があり、養老の滝を雄滝といえば白滝を雌滝と呼び、四季を通じて景勝の地である。

滝の中ほどに斜めに亀裂が走っているが、これは養老断層の跡である。

本堂の西側には、南北朝時代の宝篋印塔が安置されている。塔の高さは85㎝、石塔には「貞和四年二月一日浄心妙因」と刻まれている。鎌倉幕府の執権北条時宗の姪（土岐頼貞の妻）の供養塔である。土岐頼貞は美濃の守護であった。

古より、自然にとけこむ静けさがあり心清まる禅寺である。

交通アクセス　北勢線阿下喜駅より車で20分

20 往事をしのぶ城跡　田辺城址〈北勢町田辺304〉

いなべ市指定史跡

城址は、標高231～241mの小高い段丘上にあり、大安町、菰野町、四日市市や鈴鹿市の一部が見渡せる。また美濃に通ずる間道の守りに効果的な場所に築城した事がわかる。いまも土塁、空堀がはっきり残存し、地元の人から城山と呼ばれている。

城主は木造左衛門佐長政（具康ともいい同一人物）で木造家は、伊勢の国司北畠氏の一族で代々、木造城（久居）の城主であった。長政は10代目具政の長男で、天正14年（1586）7月に北畠信雄から員弁郡内約1万貫の領地を与えられ、田辺城主となった。天正18年（1590）岐阜城主の織田秀信の家臣（知行1万5千石）となり、岐阜に移り住み、その後福島正則に仕えて広島に移り、大膳大夫と名を変え1万9千石を与えられた。城は僅か4年で役目を終え、廃城となった。

一説には長政築城以前より城は存在していたと言われている。

民家より移築された門

堀跡

交通アクセス　北勢線阿下喜駅より車で15分

21 畑を田に　瀬木の畑田井水〈北勢町瀬木〉

畑田井水

佐藤儀左衛門の墓

瀬木の畑田井水は、瀬木の集落のまん中を北から南へ通り、宮西谷川に流し込まれ、更に鎌田川をサイホンで越えて、向田井水になり利水面積は20町歩にも及ぶ。

瀬木村は、畑が多かったので、畑を田にしたいというのが村人の願いであった。村の庄屋佐藤儀左衛門秀継は、員弁川より取水し村に井水を通すことを計画し、測量と事業計画を立てて桑名藩に具申（意見、希望など詳しく述べる）して許され、村人と共に難工事に取り組んだ。非常に難工事であった。

享保15年（1730）に完成した。

村の北の山中に佐藤儀左衛門の墓がある。墓石に享保15年4月27日、享年60才とある。

交通アクセス　北勢線阿下喜駅より車で7分

22 枝垂れ桜の天皇山勝泉寺〈北勢町西貝野199〉

真宗大谷派　御本尊　阿弥陀如来

奈良時代、行基菩薩が悟入山天野寺として、東貝野に創建したのが始まりという。寛和年間に伊勢勅願寺五ヶ寺の天皇寺として、のちに西貝野に移転されたと伝えられている。

織田軍の兵火にあったりして、その後2度本堂を再建している。現在の本堂は、元文2年(1737)再建した。

度重なる焼失にあったため火事のとき、水を吹くと言われる銀杏の木と枝垂れ桜2本を植えた。1本は室戸台風で倒れ伐採した。

この枝垂れ桜は、幹周り2m85、樹高16mあり樹齢340年ほどになるという。

春3月下旬から4月上旬にかけ、淡紅白色の花を見事に咲かせ、遠方近隣よりたくさんの見物客で賑わう。

勝泉寺の枝垂れ桜

満開の枝垂れ桜

交通アクセス　北勢線阿下喜駅より車で10分

23 広葉杉と悟入山宝林寺〈北勢町東貝野2491〉

臨済宗 妙心寺派

臨済宗妙心寺派　御本尊　如意輪観世音菩薩

宝林寺は永仁3年（1295）不動明王を祀ったのが始まりで、延徳3年（1491）上木城主片山氏が、見性寺を菩提寺とした時以来両寺の関係は深く、片山城主の祈願所であった。万治3年（1660）虎巌宗仇が見性寺に来住してから禅宗となる。

その宝林寺に環境庁（現環境省）が行った巨樹巨木調査で、日本一と言われる広葉杉がある。幹周り470cm。

元禄年間に東貝野藤沢の片山氏が寄進したと言われ、地域の人たちは「護葉杉」とよび親しんでいる。

広葉杉は中国南部が原産で、江戸時代後期に渡来したらしい。

大正5年に明治神宮へ十社村の名義で幼苗2本献上したという。

宝林寺の広葉杉の大木

裏手にある五輪塔

広葉杉の実

交通アクセス　北勢線阿下喜駅より車で15分

24 なつかしい学び舎　桐林館〈北勢町阿下喜1980〉

奉安庫

国の登録有形文化財

桐林館（旧阿下喜小学校校舎）は、平成26年（2014）10月7日に校門、および石柵と共に国の有形文化財に登録された。

校舎は阿下喜村の尋常高等小学校校舎として1937年に建てられた。

校舎の屋根の真ん中にある小さな塔、左右の三角形の屋根窓や玄関ポーチが特徴的である。内部では校長室の格天井、腰板、職員室の書架など木造建築の良さと美しさが見られる。1947年～1959年に当時の大和中学校が使用していたが、1960年から再度阿下喜小学校として使用された。1980年に現在の小学校校舎が、鳥坂野に新築されたため、本校舎は取り壊されることになったが、校区民の要望により、玄関、校長室、職員室、家庭室が保存された。校舎の周りに多くの桐の木が植えられていて「桐の学校」と言われていた。校門、石柵も当時のまま残されている。

要予約／北勢市民会館　TEL 0594-72-2200

交通アクセス　北勢線阿下喜駅より徒歩15分

25 三つ葉葵紋のお寺　龍興山見性寺〈北勢町阿下喜2872〉

見性寺

見性寺山門

どんげさんの掛軸

臨済宗妙心寺派　御本尊　聖観世音菩薩

延徳3年（1449）上木城主片山大和守信保の菩提寺として建立された。

天正(1573～1591)の兵乱で焼失したが、難をさけた聖観世音菩薩を村人たちが焼け跡にお堂を建てて奉安していた。

万治三年（1660）檀家の羽場惣右衛門らが中心になり、尾州稲沢村の禅源寺より虎巖和尚を迎え、天台宗から臨済宗に改めて再興された。

虎巖和尚は、前住寺に於いて徳川家光公から御紋付の袈裟・朝鮮焼御紋付水指・抹茶茶碗を拝領し、三葉葵の紋を使用することを許された。従って見性寺の定紋は三葉葵の紋である。朝鮮焼御紋付水指・抹茶茶碗が現在も残されている。

その後、達巖宗仇和尚が本堂を建て、更に良應和尚が総門、書院を建て大寺となった。

交通アクセス　北勢線阿下喜駅より徒歩20分　三重交通バス北勢庁舎下車すぐ

26 高瀬舟の船着場　一本松燈籠〈北勢町阿下喜〉

一本松灯籠は、阿下喜本町市場講の人達により、文久元年（1861）に建立された。桑名へ通じる濃州街道を往来する人の目印として、また、産物や年貢米を運ぶ員弁川の高瀬舟の船着場で、目印として利用されたといわれている。当時はもっと員弁川に近い場所であった。

灯籠から伊勢神宮と多度大社の遙拝もできた。

明治22・23年、濃州街道の改修に合わせてお旅所の南西に、更に昭和63年に現在地に移転された。

東面「五穀成就　村内安全」

北面「内外両宮　多度両社献燈」

西面「文久紀元辛酉九月吉辰」

と刻まれている。

一本松燈籠　高さ2.7m

交通アクセス　北勢線阿下喜駅より徒歩5分

27 松平定綱ゆかりの　平野神社 〈北勢町平野新田３〉

御祭神　松平定綱公・山神社　他2座

桑名5代藩主松平定綱公は中津原地内の原野（西野）を庄屋伊藤庄右衛門、加治清左衛門（桑名からの客人）に開拓を命じた。2年目には桑畑を、清左衛門は灌漑の計画を作り、水源地所有者の東員野村に、定綱の命により要請、これにより約２ｋｍある悟入谷からの取水が可能になったのである。田畑完成に１３年要した。東員野の水口よりも上流から取水の為、２か村で細かい約束が取り交わされ今日も守られている。寛永１４年（1637）定綱はこの地に松平の一字を与え平野新田と命名した。平野神社は、定綱の子定良が父の霊を祀ったのが始まりで、村民が感謝して、氏神にすることを願望し許された。神社の入り口にある、樹齢380年以上と言われる一本杉を燈明杉と呼び大切にしている。見晴らしの良い山頂に茶所をもうけ、お茶を献上したと言う茶山には定綱公の開拓記念碑、その近くには馬洗い池が残っている。現在の社殿は平成６年（1994）に造営。

馬洗い池

茶屋跡

交通アクセス　北勢線麻生田駅より徒歩40分

28 うどんまつりの大辻神社 〈北勢町大辻新田〉

神社拝殿

神事

大辻神社は、旧山郷村の中心にあり、山郷小学校北西部に位置します。

この地の開墾は、宝暦６年（1756）、鼓村・南中津原村・北中津原村の庄屋が、桑名藩主松平下総守に願い出た事に始まります。開墾当初、水利の便が全くないため夏の旱害はひどく、農作物の収穫は期待外れでした。そこで、鼓村庄屋渡辺三郎右衛門は溜池（神田の溜）や水路を作るなど困難な水利事業を行い、ようやく一部の地で稲作が可能な土地となりました。

この地に住み、田畑を作っていた川瀬仙太郎は大辻神社を勧請し鼓の波羅神社から分霊し、産土神（土着の氏神さん）を祀り寛政５年（１７９２）、収穫した小麦で作った「うどん」を年一度の祭りでお供えし、「神様と先祖のおかげでうどんが腹いっぱい食べられる」と感謝しました。これがうどんまつりの始まりです。

まつりは現在も行われており、７月第２日曜日、神様にうどんをお供えし、そろってうどんを会食します。昭和５３年頃には４０戸の集落も現在は１５０戸になって、小学校の体育館をお借りし、近年ではご馳走も豊富になり、お楽しみ行事も催されるなど、地元の大切なイベントとなっています。

交通アクセス　北勢線麻生田駅より車で10分

29 蓮如上人ゆかりの寺　蓮華山（れんげざん）　行順寺（ぎょうじゅんじ）〈北勢町南中津原754〉

蓮如上人逗留記念碑と行順寺

行順寺山門

真宗大谷派　御本尊　阿弥陀如来

創建は平安時代初期829年。真言宗高野山の末流であった。文安5年(1448)行順寺中興の祖と言われている刑部坊空賢（ぎょうぶぼう）が、本願寺の蓮如上人に帰依し浄土真宗に転宗した。

文安6年（1449）蓮如上人北国下向の折、行順寺に4日間逗留され教化された。

そのときに蓮如上人は、むしろの上で「南無阿弥陀仏」の六字の名号を染筆された。むしろの上であったため、文字が虎の尾の毛のようにまだら斑になっているので『虎尾（とらふ）の名号（みょうごう）』とよび、宝物の一つとして所蔵され、毎年4月の蓮如忌には他の宝物と共に公開されている。

田代越えでいよいよ別れる際、蓮如上人が「暫（しばら）くの仮の別れも蓮華谷（れんげだに）同じ蓮（はちす）の内に住む身は」と詠まれたという。

また、この行順寺には江戸末期に匿（かくま）ってもらった男が、3年かけて仏恩に感謝して「まんぼ」を掘りあげ通水し、千日目のその日に寺を去っていったという『今に伝わる報恩水道』の話が語り継がれている。（和歌は「行順寺御絵伝差図（さしず）」）より

交通アクセス　北勢線麻生田駅より車で10分

30 神木の大榧（おおがや）と寝榧（ねがや）〈北勢町南中津原〉

いなべ市指定天然記念物

榧の実は古くから食糧とされてきた。桑名藩主定綱が栽培を奨励したという記録があるが、この２本の榧の木はもっと古い。

由緒書きなどはないが、屋敷にある榧の木を大榧（おおがや）と呼んでいる。樹齢千年を越え幹周り5.5m、樹高10mもある。全盛期には約6俵(360kg)の実がなったそうだ。

榧は本来垂直に伸びて大木になるが、変種もある。個人の所有であるが、田に隣接している榧は、寝榧で地面を這うように伸びている。チャボガヤではないかと言われ樹齢800年を越えている。

昭和37年11月、日本の名木に指定されている。

森のように茂った中で、関ヶ原の合戦の落ち武者が、隠れ住んだという言い伝えがある。

大榧

寝榧

交通アクセス　北勢線麻生田駅より車で10分

31 桑名藩の大事業　六把野井水〈北勢町から東員町〉

以前の頭首工

慶長6年(1601)初代桑名藩主になった本多忠勝は、大型土木工事六把野井水の構築に直ちに着手した。35年余りの年月を要して、第5代藩主定綱の時完成したと言われている。

北勢町麻生田から桑名市大仲新田までの全長3里29町（約12㎞）が完成する。

水路幅2m～5m、勾配が千分の一から千分の二で、等高線を辿っている。

通水にはたくさんの川の横断を必要とした。

山田川は井堰（現在は伏せ越し）、明智川は伏せ越し、吉備川は懸樋、茶屋川（戸上川）は井堰（現在は懸樋）、藤川・弁天川は懸樋を使っている。当時の最高の測量や土木技術のあとが伺える。

麻生神社の石柱

畑作ばかりだった員弁川左岸の丘陵地帯が、水田（約460町歩・現在は260町歩）となり、桑名藩の財政を豊かにした。井水の破損、漏水が多くなり、昭和32年改良工事と共に頭首工を900m上流に替え、昭和41年現在の水路が完成した。麻生神社の石柱に、水下13ヶ村御神燈嘉永酉（1840）と刻まれており往時が偲ばれる。

交通アクセス　北勢線麻生田駅より徒歩10分

32 本多忠勝公ゆかりの　神護山　萬笑院〈北勢町麻生田2312〉

本堂全景

板碑、三尊仏

臨済宗妙心寺派　御本尊　阿弥陀如来

当院の起源は14世紀に龍象山萬松院と称え、天台宗の道場であったと伝わっている。古式ゆかしい梵鐘が年代を物語っている。文明2年（1470）妙心寺10世景川大和尚の孫、春江大和尚によって臨済宗に改宗、開基された。永禄年間（1558～1570）妙心寺塔頭南涌院より、南果和尚が来山された。伊勢輯雑記によると、千種城主（常陸介忠治）と萱生城主（春日部大膳）が北勢の地で争おうとしていたところ、伊勢の国司、北畠具教が仲裁の労を萬松院の和尚に要請、萱生城中にて和睦したとされる。天正13年（1585）三重郡保々村の、大樹寺から当山中興の文華大和尚が来住。道徳の優る禅師にして代々の藩主の帰依するところとなり、特に本多忠勝公の信任厚く、立葵のご紋を拝領、折々城中にて、説法、禅門の聞法に属し、後年は殿中杖を許された。当院には忠勝公の御位牌が安置されている。本堂の半鐘には天和3年・（1683）龍象山・万松院とあり、古文書（1701）には神護山・万松院と書かれている。

交通アクセス　北勢線麻生田駅より徒歩5分

33 たくさんの仏石に囲まれて　麻績塚古墳と久保院八十八ヶ所道〈北勢町麻生田1492〉

昭和電線ケーブルシステム株式会社の南側の山中に四世紀頃作られたと伝わる、大小2つの古墳がある。墓の主は長白羽神の末裔、神麻績郷とその関係者と伝えられている。一号墳は前方後円墳で、全長43m、南東を向いている。二号墳は円墳で長径16mである。出土品の一部は桐林館に展示されている。古墳を囲むようにミニ霊場、八十八ヶ所道が再現されている。久保院は笠田村和波九十郎氏の二男、久保（明治29年9月没・当時18歳）さんの追善供養の為、私有地に寺院建立と霊場を作る事を発願し、近隣、同志に呼びかけ篤志浄財（郡内14大字区、個人133名）により明治31年（1898）9月に完成した。第1番札所鳴門市の霊山寺から88番まであり、石仏だけだったり、石室内におさまっている仏様だったり、色々な表情の仏様に出会える。境内の椿は風情がある。

尚、その北隣には員弁郡戦没者記念碑がある。西南の役より第2次大戦までの戦死者（2024柱）が祀られている。揮毫は桂太郎陸軍大将である。

一号墳

八十八ヶ所道

交通アクセス　北勢線麻生田駅より徒歩10分

34 治田郷の幟り立ち並ぶ　延喜式内　賀毛神社〈北勢町垣内718〉

御祭神　彦坐命・鴨県主命・治田連命　他4座

上記3柱は今から約1100年前、平安朝後醍醐天皇の延喜5年（905）延喜式の神名帳に記載されている。

中古時代までは神田も多く社殿も宏麗であった。鎌倉時代武家の濫妨甚だしく一時衰えたが、郷民の信仰あつく祭祀を続けた。

天正年間（1573～1591）織田信長時代、長島一揆の残党が当社別当寺である興正寺に立てこもり、織田勢の為に放火されて伽藍堂宇はことごとく焼けたという。当社も延焼して、本社摂社社宝記録に至るまで焼失し荒廃した。幸い御神体は禍を免れ社を建て奉安した。江戸期に修復する。

賀毛神社の鳥居

賀毛神社由緒書き

交通アクセス　三岐線伊勢治田駅より徒歩10分

35 素晴らしい彫刻の鐘楼堂と梵鐘　紫光山（しこうざん） 圓福寺 〈北勢町東村212〉

鐘楼堂

本堂

真宗大谷派　御本尊　阿弥陀如来

圓福寺は、室町時代明応年中（1499～1500）にそれまでの天台宗より真宗に改宗された。境内には歴史的建造物と称（とな）えられている鐘楼堂が建っている。この鐘楼堂は江戸時代、文化3年（1806）京都の名工により建立され、206年ぶりに平成23年より修復が行われた。この修復により4枚の袖柱に施された美しい彫刻は再び浮かび上がり、奈良時代の様式を模した細やかな組物など、建立当時の荘厳な鐘楼堂が職人の手によって蘇（よみがえ）った。また、この鐘楼堂の中には少し小振りの梵鐘が保存されている。この梵鐘は江戸時代の延享4年（1747）に田光鋳物師　諸岡太郎左衛門尉藤原国重によって鋳造された古鐘で、戦後幸いにも返還されたものである。この梵鐘の「池の間」には、本寺の開基の歴史、本寺の法具としての梵鐘の謂（いわ）れ、鳴鐘の時を知らせる音の大きな功徳、聴鐘のご利益等々が刻されている。冶工（やこう）国重作は日本鋳造史上において貴重なものである。

交通アクセス　三岐線伊勢治田駅より徒歩10分

36 信長軍と戦った城　治田城址（はったじょうし） 〈北勢町麓村〉

案内看板

麓口溜（ふもとぐちだめ）と全景

いなべ市指定史跡

麓口溜（ふもとぐちだめ）、南側の丘陵（きゅうりょう）は昔から城山といわれ治田氏（北勢四十八氏のひとり）代々の居城、治田城址である。現在遺構は土塁や堀などの形跡が残り、主郭が西の頂部にあり、西端に櫓台跡がみられる。治田氏は菅原道真の末裔（まつえい）を称（みちざね）し、道真の五男淳茂（あつしげ）が近江の国甲賀郡美濃部郷の郷長、平左衛門為親（たいらのさひょうえもんためちか）の娘婿となりその子直茂は美濃部氏を名乗り、子孫は甲賀二十一家に数えられる土豪になった。城館は水口高校周辺にあったと伝わる。その一族九郎右衛門尉（くろううえもんのじょう）が治田に移り住んで治田氏を名乗り、領主となった。

永禄10年（1567）治田山城守の代に、織田の軍勢（滝川一益（たきがわかずます））に攻められるも落城せず、天正年間（1567～1592）にようやく信長に下ったと伝わる。一説には楠七郎左衛門尉正具（くすのきひちろうざえもんのじょうまさとも）が城主だったとも言われる。

交通アクセス　三岐線伊勢治田駅より徒歩15分

37 桑名城三の丸の唐破風門　北山　安行寺〈北勢町中山165〉

真宗大谷派　御本尊　阿弥陀如来

桑名城のお城の建物は、明治の初め命令により総て取り壊された。当時の城の様子は、文政8乙酉年（1825）2月に書かれた「桑名城絵図」の中にある。本丸、二の丸、三の丸の御殿それを取り囲む多くの門が配置されている。多くの門の中でも、本丸と三の丸御殿（桑名城主の屋敷）との間の門がいま安行寺にある唐破風門である。この門がいつ移築されたのか正確な記録が残されていなかったが、最近の修復工事の時木札が見つかった。明治9丙子年（1876）「丙子、一月之を再建す」と書かれていた。（また、木札の裏にはこの時の宮大工の名前、木挽きの名前が記録されている）

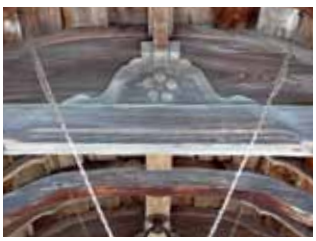
また、この唐破風門がいつ造られたか（桑名城絵図が描かれた以前）年代ははっきりしない。棟の鬼瓦の上には「寛政3辛亥年（1791）三月勢州桑名瓦師　長谷川重左右衛門　藤原正俊」と書かれていた。（片方の鬼瓦は桑名博物館に展示保存されている）

この唐破風の下には時の桑名城主　松平家の家紋、「梅鉢の紋」がはめ込まれてる。今この唐破風門は安行寺では鐘楼堂になっている。

桑名の城跡は、今は九華公園になり、移築された多くの建物は第二次世界大戦で戦災を受け焼失した。

現存する建物としては、数すくない大変貴重な物である。

安行寺の鐘楼堂


松平家の家紋「梅鉢の紋」

交通アクセス　三岐線伊勢治田駅より徒歩4分

38 治田鉱山 ― 伊勢国唯一の銀・銅山〈北勢町新町〉

鉱山跡

治田鉱山は、中世期末から近世を経て現在まで採掘が試みられた伊勢国唯一の銀銅山である。戦国末期から銀や銅を産出していたが、最も多く産出されたのは江戸時代に入ってからである。その経営は幕府が直接管理し、代官や山奉行が北勢町新町の陣屋で鉱山を支配した。しかし、鉱石の産出が乏しくなると治田郷がその経営を請け負った。このような鉱山経営（民営）は他にはあまり例がない形態である。

この鉱山が繁栄した時代には、摂津国多田鉱山や諸国から鉱山に関わる人が多数やって来て集落（新町）が形成された。新町の甘露寺や新町神社はその当時の関係者によって建立されたものである。また、新町の甘露寺・三光寺、北勢町中山の安行寺の梵鐘はこのとき産出された銅を基に作られたものである。この銅は治田から陸路で伏見まで運ばれて、伏見から舟積みして水路で大阪へ下ろしたと記されている。大正になって五代友厚の娘、五代アイも大阪からはるばるこの治田の地に移り住み、「最後の山師」と言われ心血を注いで鉱山開発に努めたが見るべき成果はなかったと言われている。

伍代藍子さん（右）

交通アクセス　三岐線伊勢治田駅より釜跡まで徒歩4時間

39 治田鉱山にまつわる　大雨山　甘露寺〈北勢町新町119〉

甘露寺の梵鐘

新町神社 石臼

浄土宗鎮西派　御本尊　阿弥陀如来

当寺は京都知恩院の末寺で、江戸慶長年間（1596～1614）、治田鉱山繁栄の頃、摂津の国（兵庫県）川辺郡多田村の多田銀山から移住してきた多くの鉱夫たちの勧請により、浄土宗多田甘露寺の分寺として、南河内三光谷に建立された。明暦4年（1658）現在の場所に移す。文化11年（1814）本堂を再建する。鐘楼堂には、治田鉱山から産出した銅を基にして造られた梵鐘がある。製作年代貞享3年（1686）、製作者桑名辻内善右衛門の名前が刻まれている。「一里聞こえて二里響く」とまで言われた名鐘である。

第二次大戦中ほとんどの寺院の梵鐘が兵器製造のため強制供出されたが、県の特別保存の指定を受け供出を免除された。

治田鉱山ゆかりの寺としては、近くに日蓮宗「実成寺」、浄土真宗「三光寺」がある。新町神社には、鉱山で鉱石を粉砕するため使用された「石臼」や、産出した銅で作られた「鰐口」がある。

交通アクセス　三岐線伊勢治田駅より車で10分

40 「屋奉松明」で有名な　延喜式内　鴨神社〈大安町丹生川上429〉

いなべ市指定無形民俗文化財
御祭神　鴨別雷神、玉依姫命　他10座

天平19年（747）大和大安寺の文書に記載があり創建は極めて古い。祭神は鴨別雷神（かもわけいかづちのかみ）玉依姫命（たまよりひめのみこと）である。旧殿は建築様式から約400年前の建物。

いなべ市指定無形民俗文化財　屋奉松明は神社創立の時、京都から神宝を迎えたときの神事を表したと伝わる。

900kgもある大松明

周囲4.5m長さ4.5m重さ900Kg雌雄の大松明に神火を点け「デヤ！デヤ！」の掛け声も勇ましく蒸しあい、立てたり倒したり鳥居を三度奉焼し、その後、紋付袴の若者による「烏追い」、締込みでの「飛角力」で神事が終わる。屋奉松明神事は、現在3年に一度10月に斎行されている。

境内にはいなべ総合学園美術部、書道部による屋奉松明絵巻と織田信長が北勢地域に侵攻したおり、馬をつないだと伝わる幹回り6mの楠の大木がある。

屋奉松明絵巻

交通アクセス　三岐線丹生川駅より徒歩15分

41 金剛山持光寺・大正図書館〈大安町丹生川久下1504〉

伊勢輯雑記原本

持光寺は初め久保院阿弥陀堂と号し、もとは尾張国海西郡にあり北勢町治田に移った。今も治田寺山東麓に持光寺屋敷として地名をとどめている。織田信長の北勢侵攻により焼失し現在地に移された。第1世住職は証澄であるが、その後、小杉村（四日市市小杉）に移り、通寺となった。明和年間（1764〜1772）に第11世勝煙以降住職が常在となった。寺宝に第1世証澄着用の文禄2年2月の銘入りの五条袈裟一領がある。現住職は23世則雄師。

21世巖英師は布教使となり、旅順奉天の布教をはじめ在米同胞慰問、宗教状況視察、ハワイ同胞慰問等を巡歴され、全国各地講演された。また、巖英師は地域青年の教養に資するため大正2年（1913）に民間開放の大正図書館を開設された。大正図書館には、松宮周節の「伊勢輯雑記」の原本も所蔵されている。

交通アクセス 三岐線丹生川駅より徒歩10分

42 おかげ参り旅立ちの地〈大安町丹生川久下〉

丹生川村は、600年の昔から「御厨」といい、神宮の社領地で、毎年6月と12月に内宮に米、麦を供える習慣があった。

江戸時代になると「一生に一度はお伊勢参りを」と全国的におかげ参りが盛んになってきた。

丹生川、松宮家に文政13年(1830)伊勢神宮のお札が降ってきた。同家はお札を氏神さんに祀り、当地に外宮、内宮への常夜灯を奉納し、参宮出来ない人達がこの地から神宮を遥拝した。

当時の農民の暮らしは貧しく、伊勢参りは多額の費用が必要である事から、講を作り皆でお金を蓄え、交代で代表者がお参りをする「代参講」が作られたのである。

この地はお伊勢まいりの出発点とされ、村人総出で代参者を送り、出迎えた。

ふるさと景観事業として平成12年「おかげ参り旅立ち地」として整備された。

交通アクセス 三岐線丹生川駅より徒歩15分

43 全国屈指の規模　片樋（かたひ）のまんぼ〈大安町片樋〉

片樋地区は、三方を員弁川や青川、源太川に囲まれていますが、高台にあるため古くから農業用水の確保に苦労してきました。この水不足を解消するため考え出されたのが、地下の水脈や浸みだし水を集める、まんぼ（間風）と呼ばれる横井戸式の灌漑用水でした。

工事が行われたのは江戸中期の明和年間で、時の庄屋・富永太郎左衛門が私財をつぎ込み5年かけて完成させました。地下5〜7メートルに掘られた水路は、幅約1メートル、高さ約1.5メートルほどで、人ひとりがしゃがんでやっと歩けるほどの大きさです。掘り出した土砂の排出や空気の取り入れのため、20〜30メートルおきに縦穴を設けています。

幕末の安政の大地震で、まんぼに大きな被害が出て水量が減ったため、庄屋の二井藤吉郎が改修と延長工事を行いました。2回の工事でまんぼの総延長は、約1,000メートルにもなり、全国有数の規模になっています。現在も、現役の農業用水として利用され、約8ヘクタールの水田を潤しています。

片樋地区では、2人の庄屋の遺徳と先人たちの水に対する苦労を長く伝えようと、庄屋墓地や顕彰碑を整備し、7月の第1日曜日には「まんぼ祭」を開催しています。

まんぼ入口

交通アクセス　三岐線丹生川駅より徒歩15分

44 雨乞いの宮　延喜式内　大神社（おおみわのやしろ）〈大安町片樋1433〉

御祭神　大物主命（おおものぬしのみこと）・須佐之男命（すさのおのみこと）・大山祇命（おおやまのぬしのみこと）　他6座

『北勢古志』によれば、当社は平安時代には大社にして、社領も多く神宮寺まであったが、永禄（えいろく）年間織田信長北勢攻略の時、当社・神宮寺も焼失し、元亀2年（1571）社領・寺領も没収された。

文禄3年（1594）藩主御検地のとき神田として1反6畝11歩を賜（たまわ）った。（現存する）

慶長17年（1612）藩主本多美濃守（忠政）から、明暦元年（1655）には松平越中守（定良）から、再建のための献木があった。

慶応3年（1869）12月20日、有栖川宮（ありすがわ）殿下が参拝され、幔幕（まんまく）と提灯2張りが下賜（かし）された。

また、承応3年（1690）の大旱魃（だいかんばつ）の時、雨乞いをしたところ翌日大雨が降り雨乞いの宮としても知られている。

境内に池沼（ちしょう）があり水神様が祀られている。

延喜式内大神社

境内にある池

交通アクセス　三岐線丹生川駅より徒歩15分

45 自然豊かなアウトドアステージ　竜ヶ岳(1099m)〈三重県・滋賀県〉

金山尾根の紅葉

2月強風時の傘雲と樹氷

鈴鹿国定公園

竜ヶ岳は標高1099m、穏やかなドーム状の山容で秋はススキが美しく、平原が広がる山頂では360度の大パノラマが望める。

5月中旬にはシロヤシオが咲き誇り、秋はシロヤシオの紅葉が見事で、絵日記を描きたくなる最高のアウトドアステージを作ってくれる。

登山口である宇賀渓は、さまざまな大きさの滝があり、豊かな自然を身近に感じられる人気のエリアだ。中でも遠足尾根登山道は始めの稜線までが急なものの、一度稜線に上がれば、なだらかな尾根が続き、見晴らし場からは、いなべ市はもとより、アルプスの山々まで見渡せる。竜ヶ岳の名の起こりは、郷土資料によると「竜雲を起し、雨を呼ぶ」の故事による。日照り続きで米の不作を憂えた麓の豪族が、この山には“恵みの雨をもたらす”竜神が潜むと、中腹にあるどやの淵の白蛇伝承と古い言い伝えをもとに、竜神を祀って雨乞い祭りをした。古例により竜ヶ岳と名付けた。

交通アクセス　三岐線大安駅より登山口まで車で25分

46 巨木の並木参道　延喜式内　石部神社（いしべ）〈大安町石榑南（いしぐれみなみ）2017〉

御祭神　天日方奇日方命（あめひがたくしひがたのみこと）　他5座

国道421号沿いに、大きな石の鳥居が見える。

神社の玉垣から社殿前の小川にかかる石のそり橋まで、全長200mもの参道が続く。

その両側には直径60cm～100cm、高さ20mにもなる杉の巨木や桧また雑木が林立し、市内では類を見ない見事な並木を形成している。

創立の年代や由緒など不詳だが、東向きに建てられた社殿には、「山王宮」の金字額がかかげられ、荘厳な神域の景観はすばらしい。

杉並木が、市の天然記念物に指定されている。

杉が林立する参道（いなべ市指定天然記念物）

石のそり橋のある石部神社

交通アクセス　三岐線大安駅より車で10分

47 すばらしい渓谷美　宇賀渓〈大安町石榑南〉

ハイキング･登山･キャンプで賑う宇賀渓

多くある滝の一つ
御所滝

鈴鹿国定公園

宇賀川上流の通称「落合」で合流する、「北河内」と「南河内」の流域全体を指す総称である。

大小さまざまの美しい滝(魚止め・燕・長尾・御所他数々)が渓谷美を作り、奇岩の砂山や竜ヶ岳など、ハイキング・キャンプ・登山と幅広く楽しめる人気の景勝地である。

花崗岩と古生層の接触地なので、鉱物の種類（蛍石、水晶など）が多く、昭和30年国指定の特別天然記念物のカモシカをはじめ、蝶のキリシマミドリシジミ、両生類のカジカガエル・モリアオガエルや植物のホンシャクナゲ・ゴヨウマツなど、貴重な動植物の種類も豊富で、まさに自然の宝庫で、近くに雨乞い信仰の爪引地蔵がある。

念願の石榑トンネルも平成23年開通し、滋賀との交流も深まり、観光客の増加が大いに期待される。

交通アクセス　三岐線大安駅より車で15分

48 大昔からの伝説　弘法大師爪引地蔵〈大安町石榑南〉

爪引き地蔵

案内標柱

石榑南から宇賀渓に向う国道421号沿い、畑が無くなるところの右側に永源寺跡があり、左側に六地蔵が祀られている。その前の小道を少し入った広場にお堂があり、そこに大きな石のお地蔵さんが祀られている。造立年代は、はっきりしないが平安期にはすでにあったと言い伝わっている。

昔この地方は非常な水害で川が氾濫し、田畑が流され村人が困っているとき、そこへ弘法大師が通りかかられ爪でお地蔵さんを刻まれ、水害のないようにお祈りになった。これで水害がなくなると、次に日照りが続き水不足で凶作が続き、困った村人は爪引地蔵に雨乞いを祈願し、雨が授かると御礼行事が盛大に行なわれたと伝わっている。

お堂は明治40年（1907）石榑村発足の時建てられたが、昭和59年〈1984〉に再建され現在に至っている。お地蔵さんの大きさ（幅1.5m　高さ1.7m）

交通アクセス　三岐線大安駅より車で15分

49 蓮如上人ゆかりの寺　南山（なんざん）　照光寺（しょうこうじ）〈大安町石榑南1419〉

蓮如上人像がある本堂

蓮如上人逗留記念碑

浄土真宗本願寺派　御本尊　阿弥陀如来

開基は平重盛の曾孫（ひまご）（長崎四郎照光）が建立したと言われる。

文安6年（1449）4月、蓮如上人が、近江から竜ヶ岳を越えて当寺に4日間滞在し、布教に努められた寺である。

この来錫（らいしゃく）を追慕して、毎年4月上人の遺品の開帳が開かれる。主な宝物は、高祖聖人御木像・上人自筆の六字名号・上人が詠まれた自筆の二首の和歌・念珠・御扇子その他数々あり、照光寺本尊の一寸八分の金像も拝することができる。

中世の頃には二百余の末寺を持ち、伊勢三大寺の一つに数えられた格式高い寺であった。

「御開帳」とか「蓮如さん」と呼ばれ、参道には露店もたくさん立ち参詣（さんけい）の人で賑わい、近隣の家々では来客をもてなすのが恒例となっている。

現在の本堂は天保14年（1843）起工、数年を経て完成した。いなべ市で第一の巨堂で境内の眺めも格別である。

交通アクセス　三岐線大安駅より車で15分

50 四季を通じて楽しめる　両ヶ池〈大安町石榑（いしぐれ）・三里地区〉

約350年前（寛永年間）両ヶ谷を堰き止めて、上溜（うわだめ）が作られた。

また、約200年前（寛政年間）宇賀川に水源を求めて下溜（しもだめ）が作られた。

面積は上溜・下溜を併せて20.5町歩で、水田46町歩を潤している。

中央に水神様を祀り、毎年8月には水神祭を催し山車（だし）も出される。このように農業に大切な水が蓄えられる溜池である。近年、ミルクロードができてからは浮屋、散策道路、公園も整備され、遠足やハイキング・写生等で訪れる人が多くなった。

ドライバーにも、竜ヶ岳の壮大な景色や水面に映る姿に、心を休められる絶好の休息場となっている。

毎年5月中旬には草競馬が行われ大変な賑わいとなる。

竜ヶ岳の絶景が見られる両ヶ池

両ヶ池草競馬場

交通アクセス　三岐線三里駅より徒歩15分

51 貴重な収蔵品のある いなべ市郷土資料館〈大安町平塚525〉

昭和44年(1969)大安町役場として建築され、室内に柱がない天秤式建物として当時は注目を浴びました。(同年「中部建築賞」受賞) その後、大安町役場が同町大井田に移転したため、昭和61 (1986) 年より『大安町郷土資料館』として利用されることになりました。平成15 (2003) 年の「いなべ市」発足に伴い名称を『いなべ市郷土資料館』と改め、現在に至ります。

6千点余りの民俗民具を中心に考古資料、古文書等の収蔵・展示とともに、旧4町の町史編纂時の資料の保管もしています。昔の産業や生活の様子がわかる資料もたくさんあり、地域住民及び小学生の地域学習の場としても広く活用されています。

休　館　日／月・火・年末年始 (12月28日～1月5日)
開館時間／9：00～17：00
お問い合わせ／0594-78-2526

交通アクセス　三岐鉄道線三里駅より徒歩3分

52 下両ヶ池の築造に尽力　光頂山（こうちょうざん）　西岸寺（さいがんじ）〈大安町平塚530〉

左より私札、藩札2枚、木版2個

浄土真宗本願寺派　御本尊　阿弥陀如来

西岸寺は元亀（げんき）、天正年間 (1570～1592) に釈道岸により開山された。本堂には天正11年 (1583) 本願寺11世顕如（けんにょ）上人より下賜せられた阿弥陀如来像が安置してある。9世住職玄海が、毎年旱魃（かんばつ）で苦しんでいた農民を救う為、宇賀川より水を引き入れる溜池の築造に、全村民の先頭に立ち尽力、苦役10年の歳月を要し完成させた。現在も30町歩の水田を潤している。玄海和尚の功労に感謝し、毎年8月に「雨乞いの風習」の水神祭りが行なわれている。

なお、玄海和尚の妻は、桑名藩主松平忠功（ただかつ）の家臣(家老)で寺社奉行の奥平織右衛門の長女であり、藩からの信頼も厚く、藩札の扱いや私札の発行が許されていた寺だった。現在も当時の藩札、私札、木版が大切に保管されている。

境内の碑(小林カナヲ・1900～1998)の俳句
聞法（もんぽう）の　座に落ち着きて　汗しらず <香尚（こうしょう）>

交通アクセス　三岐線三里駅より徒歩5分

53 珍しい記念碑　庸凞山（ようきさん）　了円寺〈大安町高柳1014〉

真宗大谷派　御本尊　阿弥陀如来

天台宗の末寺であったが、蓮如上人の巡化（1449）で真宗に転派後、12世教如上人に深く帰依し、東本願寺の末寺となった。寛永５年（1628）了円坊が現在地で開基。天和（てんな）元年（1681）２月本山より「阿弥陀如来木像」が下附（かふ）、同時に「了円寺」の寺号を免許された。明治７年には９代目住職宗道が高柳学校開設に尽力。境内、東山門前（正門）には２基の石碑が建っている。正面右の石柱には「庸凞山了円寺」「元禄元年」（1688）の銘のある寺号標柱が、正面左には、大きな花崗岩の自然石に※「破麗（はじん）教会記念碑・花山大安書」「明治24年３月創会・昭和６年３月建碑」と銘打った珍しい石碑が建っている。本堂には万治元年（1658）蓮如上人直筆の「南無阿弥陀仏」６字名号が保管されている。

※破麗教会・煩悩を打ち破る（破麗）考えを学ぶ（教会）の講組織。
※花山大安・東員町中上の当時の遍宗寺（へんそうじ）住職（当時の大谷大学教授）
※この記念碑は当時の寺（教会）の講組織が解散するにあたり出資金の残金で建てたもの。

了円寺正門

破麗教会の碑

交通アクセス　三岐鉄道三里駅より徒歩２分

54 大蛇退治の故事　的場跡（まとばあと）〈大安町高柳〉

旱魃（かんばつ）でも枯れる事の無い松葉井戸（まつばいど）と呼ばれる池がある。いつの頃かこの池に住み着いた大蛇が、作物を荒らしたり、家畜や村人を襲う様になった。そこで、村人は大蛇を退治しようと庄屋と相談した。ある日、通りすがりの侍に頼んで、大蛇を、弓矢で左目を射たが、両眼を射なかったので、再び、大蛇が現れたとの噂が流れた。村人は、竹や紙で蛇形を作り、右目を弓矢で射たところ、大蛇の姿は消えた。以来、この大蛇退治に因んで、松葉井戸付近で大蛇の目玉を的に射る「的場祭り」を行う様になった。ある時、通行人に弓矢が当ったので、その後、了円寺（りょうえんじ）の南門より現在の的場跡に向かって弓矢を射る様になった。蛇形の的の置かれた所を、今でも「的場」と呼んでいる。

松葉井戸

交通アクセス　三岐線三里駅より徒歩10分

55 大井田井水と弁天祭礼 〈大安町大井田2705〉

現在の大安町大井田は江戸時代初期、大井田野と言われ、極めて田畑の用水が不足していた。明和元年（1764）大井田村里正出口嘉平治は、高柳（現在の三笠橋下流）で、員弁川の水を引き入れ、途中宇賀川の水も取り入れる、延長2ｋｍの大井水の工事を行った。しかし、天保の頃（1830）大井田村の西部は、年々続く旱魃に用水が不足し困窮していた。文久２年（1862）大庄屋因善六郎は、宇賀川の対岸に湧水池を発見した。その水を宇賀川の川床に伏せ越しの樋を作り、周辺の荒地３町歩に松苗を植林し、中央に池を作り水田12町歩の用水とした。大安庁舎入り口の松林の中の池がそれで、現在も井水として利用されている。また、東部の田畑も降雨のたびに、宇賀川の井堰が流され村人が困っているのを見かね、明治元年(1868)私費を投じ宇賀川の河道を付け替え、川底に堅牢な樋を埋設した。以後水害はなく、この篤行に対する村民の感謝が大井田弁天祭礼の始まりである。

出口嘉平治・因善六郎記念碑

大井田湧水池

交通アクセス　（大安庁舎前湧水池まで）三岐線大安駅より徒歩10分

56 御本尊は県文化財指定　笠間山　光蓮寺 〈大安町門前414〉

薬師如来坐像
三重県指定有形文化財

光蓮寺　寺碑

臨済宗妙心寺派　御本尊　薬師瑠璃光如来

笠間山光蓮寺は、天平8年（736）僧行基の開基と伝えられ、御本尊の「薬師瑠璃光如来」は、昭和54年（1979）に県文化財の指定を受けた木像の座像である。

この御本尊の製作年代は平安後期といわれ、作者は行基とも伝えられている。桧材寄木造で彫眼である。像の高さは89.4㎝の結跏趺坐（座禅の時の座り方）で円満安座の相である。

衣文の彫りは浅く流れるような線で彫られている。肉髻珠（仏頭とも訳し二段になっている）や、白豪（眉間の光を放つ珠玉）は水晶が使われ顔は円相で温和である。平安朝様式をよく伝えていて台座は後の時代に補われている。

光蓮寺の墓地の宝篋印塔は、秀吉軍とともに滝川一益軍と長島で交戦、死亡した梅戸城主佐々木六角高頼の四男梅戸左衛門高実の墓と伝えられる。

交通アクセス　三岐線大安駅より徒歩15分

57 八風道と八風街道

室町時代にはすでに、八日市を中心とする近江商人がすぐ東の八風越えをして桑名へ、千種越えをして伊勢へと商品を商っていた。この道は山は険しいが、関所は少なく山賊の防御にも適していた。1400年代後半では近江商人たちが年1,2回500人以上の隊商を組み、商品を運んでいたと言われる。さらに1498年の東海、南海の巨大地震とそれにともなう大津波で、津の港が流失し、関東への舟運は大打撃を受け、桑名へ向かう八風越えがにぎわった。1500年代初期には連歌師宗長や公家の山科言継卿も通った記録があり、織田信長も永禄2年（1552）に八風越えをしている。

江戸時代になると、東海道、中山道など、陸路の整備が進んだが、八風街道には公的な整備はなかった。文政8年（1823）に桑名藩の奥平松平家が忍藩（現在の埼玉県行田市近辺）に領地替えになり、飛び地として桑名藩領の一部（現大安町と東員町の半分以上、桑名市の一部、三重郡、朝明郡の朝明川流域の村々）を領有し、大矢知に陣屋を置き支配した。そして富田一色から田光までを八風道として整備し、途中の小島から梅戸、桑名までの、それまでの八風街道を八風脇街道と呼んだようである。この名称が幕末まで続いた。

番所跡

千代ヶ崎跡
（南金井神社）

右とみだ左くわな

58 地域のシンボル　梅檀（せんだん）の木 〈笠間小学校 大安町門前561〉

笠間小学校の梅檀の木

樹齢／約130年　樹高／15m　幹回り／4m
花期／5〜6月、淡紫色の5弁の小花を咲かせる

大きな腕を広げて子供たちを見守ってくれている梅檀の木は笠間小学校のシンボルとして子供達や、地域の人達に親しまれている。樹齢は定かではなく諸説あり「学校沿革誌（えんかくし）」にも確実な記録は不明だ。

①明治25年（1892）に笠間小学校が現在地に開設した時に植樹された。②卒業生の手紙に「植樹以来68年、樹齢80年」とあり、それ以来長年過ぎている。

春には鮮やかな若葉、夏には爽やかな木陰を作り、秋には黄色く色づき、やがて散っていく、梅檀の木は学校行事の集合場所や、スケッチのモデルとして、笠間っ子にとってはなくてはならない大事な木である。老木の為、保護する取り組みも続けられている。古名は「あふち」と言い、「夏は来ぬ」の歌にも出てくる。毎年卒業式には、卒業生から在校生に梅檀の木の様に大きく、優しく、強くなれと第2校歌の様に贈り歌い継がれている。

梅檀の花

交通アクセス　三岐鉄道梅戸井駅より徒歩15分

59 内親王を祀る　比丘尼塚〈大安町南金井1371〉

伊勢神宮には古より斎王（昔天皇が御即位の時、未婚の皇女を選び神宮に奉仕された斎主の称）の制度があり、勅命を受けられた皇女が、斎王として御童体のまま奉仕されていた。しかし、この制度も約700余年前南北朝の動乱中に廃絶した。最後の斎王となられるはずであった後醍醐天皇第三皇女祥子内親王が、伊勢への群行がかなわなかったので、せめて伊勢の国へと向かわれたが、南金井の北山畑で病気になられたので庵を建て比丘尼（出家された尼僧）となられ、周徳上人として過ごされた。

病没された後も、懇ろに葬ったのがこの比丘尼塚であると言い伝えられている。

近年、内親王のお墓だということで、小さな祠を建て、案内板や参道が整備された。また4月には慰霊祭も催されている。側には四阿や桜の木も植えられ花見にも良い所である。

また、斎宮谷・番所跡・尼ヶ谷の地名もあり関係があるのではないかと考えられる。

比丘尼塚碑

祥子内親王祠

交通アクセス　三岐線梅戸井駅より徒歩20分

60 日置てい女（俳号 梅仙）〈1823～1858〉

日置てい女は文政6年（1823）梅戸村三ッ石にうまれた。

日置家は織田信長に仕え、梅戸城攻略の功により西野尻村から梅戸村に移住して庄屋を勤めた。ていは幼少の頃から聡明で、兄に読書や習字を学び俳諧にも関心をもち、はじめは独りで句を作る事から始め、また仲間から学ぶ事により、上達していった。

18歳の時俳句の先生に就き、やがて県下女流俳人の第一人者となった。諸国を歴遊し「加賀の千代女」（1703～1775）の旧跡を訪ね、お墓に詣でた。加賀の前田慶寧公にお目通りを許された時の即吟が賞嘆を得、「今千代」「伊勢の千代」とまで呼ばれたと伝えられている。また紀州の殿様に拝謁した時も、賞詞と褒美の品が贈られ、この情景を藩の儒学者が長詩に詠まれるなど、多くの功績を残したが、残念なことに35才で越後にて客死された。

100年記念公園の碑

笠間小学校の碑

てい女の句碑は大安町地内の笠間小学校、徳善寺、100年記念公園に建立されている。

<代表作>　乞食の　敷根はにくし　花菫

交通アクセス　交通アクセス，三岐線、梅戸井駅より徒歩７分

61「台風相撲」で賑わう　土生神社〈大安町梅戸2344〉

御祭神　埴安姫命　他5座

三岐鉄道梅戸井駅の南に大きい森があり、石造りの階段を120段登り詰めると神社がある。

境内には、本殿、拝殿、神楽殿、神宝殿が並び壮大な感じがする。

春秋には大祭が、夏には天神祭が催され、参道には行燈が掛けられ参拝客を和ませてくれる。山車も出て賑やかである。

社務所の入り口の両側に大石二個、道を挟んで一個立っている三ッ石は俗信によれば、これをゆさぶれば旱魃には雨を降らし、(魃はひでりの神の意)祈れば瘧(熱病)を全治すると伝えられていた。

昔は競馬も催され、近郷近在は勿論のこと遠方からも見物に来る人達で賑わった。

今は毎秋「台風相撲」という名がついているように9月20日頃に相撲が催され、愛好者で賑わっている。

120段の石段がある土生神社

三つ石の一つ

台風相撲場

交通アクセス　三岐線梅戸井駅より徒歩10分

62 大友皇子の末裔の開基　大龍山天智院　通念寺〈員弁町市之原905〉

山門

本堂全景

真宗大谷派　御本尊　阿弥陀如来

大同元年(806)春、最澄の弟子であつた通念坊義山(弘仁15年・824・入寂)が天台宗通念寺として当地に開山したと伝えられている。僧　義山は壬申の乱(672)に敗れた、天智天皇の長子大友皇子(後の弘文天皇)5世の孫、王来王家式部卿峰基であると言われている。第11世の僧明西(建長6年(1254))が、親鸞上人に帰依して浄土真宗に改宗し、天智院通念寺と改めた。昔の本堂は、現在地の南西側の一段低い所にあったが、火災消失後に現在地に移された。現本堂は天保年間に石槫照光寺より移築、改修された。なお、六字名号は、東本願寺初代法主教如上人より天正7年(1579)に拝領したと記載されている。山門は明治末期、鐘楼堂は昭和4年完成、贅を尽くした彫刻がたくさん飾られ、威風堂々と京風の庭にとけこみ時代を物語っている。

交通アクセス　北勢線楚原駅より車で15分

63 日本屈指のコノハナザクラ〈員弁町坂東新田55〉

水谷氏宅の
コノハナザクラ

コノハナザクラ

いなべ市指定天然記念物

コノハナザクラはヤマザクラの変種で、4月下旬にヤマザクラより少し遅れて開花し、花は八重桜で花弁は細く、一つの花にめしべが2本から4本持つ花が60%～70%を占め、下向きに多少ぶら下がるように咲く。

花が散ったあと、5月中旬～下旬には2～3個の実が、柄の先にくっついて熟す。

コノハナザクラの野生が現在確認されているのは、京都府亀岡市の1本と東員町（トウインヤエヤマザクラ）の2本である。日本で4本目に発見された稀産の樹木であり、学術上極めて評価の高い植物である。

交通アクセス 北勢線楚原駅より徒歩40分

64 農民の知恵　刻限日影石（こくげんひかげいし）〈員弁町笠田新田1448〉

三重県指定有形民俗文化財

寛永13年（1636）当時の桑名藩主であった松平定綱は、笠田新田、大泉新田両区の開発のため、灌漑（かんがい）用の大溜である笠田大溜を築造させた。その結果、両地区100ヘクタールの水田が潤った。

水田の増加によって用水が不足して水争いが度々起こり、死者が出るまでの争いになった。笠田新田と大泉新田の分水時刻の判定をめぐる問題など、争いが幾度となく起き、適切な解決の途が見つからなかった。

弘化4年（1847）羽津村庄屋藤谷傳之助が仲裁役に入り、分水時刻を大泉新田は日の出から7つ半時まで、笠田新田は7つ半時から日の出までとする事を合意して和解が成立した。

当時、大泉村庄屋懸野松右衛門の発案により日時計「刻限日影石」を建立することを藩庁の裁可を得て建てたのである。これによって大溜の水が公平に分けられるようになり、長い間続いた争いはなくなったという。

笠田大溜にある
刻限日影石

刻限日影石

交通アクセス 北勢線楚原駅より徒歩30分

65 水不足を救った　員弁大池〈員弁町楚原1202～86〉

三重県自然環境保全地域

昭和9年（1934）8月溜池の工事が始まり、昭和11年（1936）3月完成する。

溜面積2万1544坪受益面積208町3反、組合員数503軒。

溜池の東側の小高い山の斜面に員弁池神社があり、祭礼は3月23日と10月23日となっている。

員弁大池にある和波組合長碑

いこいの場　いなべ公園〈員弁町楚原1303-1〉

噴水のあるいなべ公園

員弁大池のほとりにある自然に囲まれたいなべ公園には、3つの橋や広場、一周2㎞の遊歩道や噴水などがあって、家族連れなど大勢の人達で賑わう。

また、ふるさと創生事業によって建てられた員弁町のシンボルタワーがある。

交通アクセス　北勢線楚原駅より徒歩25分

66 雨を降らす　大池山・瑞龍院・観音堂〈員弁町笠田新田813〉

抜雲和尚像

真宗大谷派　御本尊　阿弥陀如来

天明元年（1781）、長楽寺（藤原町篠立）抜雲覚瑞（ばつうんかくずい）和尚が招請され、赤溜（あかだめ）の西に位置する経ヶ丘に庵をつくり、聖観音像を安置したことに始まる。天明3年（1783）笠田新田は厳しい旱魃（かんばつ）となり、抜雲和尚が農民たちの窮状を救おうと観音さまに雨乞いを行ったところにわかに大雨が降った。これ以後この観音像は雨乞い観音と呼ばれ、崇（あが）められるようになった。

抜雲和尚は文化4年（1804）に入滅（にゅうめつ）、これ以降農民たちが雨乞いをする時は、抜雲自作の坐像を背負って、北勢町の田代ヶ池（この地域の雨乞いの聖地）まで運び、祈祷したと伝えられる。3世の代に庵が焼失し、天保９年（1838）農民らは現在地（濃州道四辻添い）に観音堂を再建した。昭和54年（1979）に本堂が改築され境内が整備された。今も村寺として諸法要の道場として、また地元の方々の憩いの場として利用され親しまれている。

交通アクセス　北勢線楚原駅より徒歩15分

67 平家の流れをくむ　龍華山覚通寺〈員弁町上笠田1936〉

山門

寄灯籠

真宗大谷派　御本尊　阿弥陀如来

宝徳元年（1449）8代将軍足利義政の家臣で、桓武天皇の末裔三浦清経は、主君の怠惰奢侈を諫言したが入れられず、主家が永続し難いことを察知してその任を辞し、文明2年（1470）当地に落来し、出家得度して源明と称し、一寺を建立したのが当寺のはじまりで真言宗に属した。

文明11年（1479）本願寺第八世蓮如上人が当国巡化の際、上人に帰依して浄土真宗に転じ信称坊静真と法名した。

尚、境内には昭和15年に作られた高さ4.1mの自然石で組まれた寄灯籠があります。菰野町の石工 市川宗一氏の代表作です。

阿弥陀如来像は恵信僧都作で、文明11年に信証房へ賜ったと伝わる。

交通アクセス　北勢線楚原駅より徒歩30分

68 戦争の歴史を残す　下笠田　八幡神社〈員弁町下笠田147〉

御祭神　品陀和気命（応神天皇）　他6座

仁寿元年（851）創建と伝わる。神社はもともと庄屋、多湖兵太夫屋敷内の社殿に祀られていたが、明治8年（1875）現在地に遷座された。明知川にかかる宮橋を渡り、鳥居をくぐり、北勢線の踏切（楚原7号踏切）を渡って境内に入ると文化13年（1816）に建立された石燈篭がある。目に飛び込んでくるのは拝殿前に並ぶ機雷と砲弾で、昭和11年（1936）海軍中将和波豊一氏が寄進した。「通神」と記された機雷は戦艦陸奥（1943年沈没）「至誠」と書かれた砲弾は戦艦長門（1946年7月マーシャル諸島にて沈没）で使用されていたものである。この貴重な機雷と砲弾は、和波豊一氏が退役を記念して郷里の氏神さんに祀られた。

江戸末期から、秋の例祭に「やくめし」神事（やくめしを子供達が奪い合う）が行なわれていたが、戦後この行事は無くなり、やくめし（白米を蒸した強飯を固くにぎった）だけを神前に供える神事は、現在も続けられている。

交通アクセス　北勢線楚原駅より徒歩20分

69 市内に１ヶ寺　真宗仏光寺派　笠田山・東光寺〈員弁町下笠田1551〉

正門のサルスベリ

五輪石

真宗仏光寺派　御本尊　阿弥陀如来

天正年間（1573〜1591）に京都の仏光寺九遠院10世昌通が近江国栗太郡片岡村（滋賀県草津市片岡町）に東光寺を開山した。明治43年（1910）林潜隆の代に現在地に移転し、山号を笠田山とした。

本堂は明治44年（1911）に福楽寺（藤原町上相場）の古御堂を移築した。真宗十派の中の一つである仏光寺は、越後流罪にあわれた親鸞聖人が御赦免の翌年建暦２年（1212）京に帰られ、山科の地に草庵をむすばれた。この草庵が仏光寺草創と伝わる。後醍醐天皇より寺号を賜った仏光寺はますます隆盛、それとともに延暦寺の弾圧が強まったのと、経豪上人が多くの末寺を連れて本願寺に帰参したため次第に衰え、代って本願寺が台頭するところとなった。

天正14年（1586）秀吉の懇請により、寺基を現在地（下京区）に移した。全国に390（三重県内5ヶ寺）の末寺がある。

交通アクセス　北勢線楚原駅より徒歩15分

70 夏祭でにぎわう　楚原神社〈員弁町楚原647〉

御祭神　品陀和気命　他7座

天文7年（1538）5月創建されたが、永禄12年（1569)兵火にかかって焼失したと伝えられている。大正5年8月御薗の字道南に鎮座していた御薗神社を合祀した。

常夜燈は宮立形、正面奉燈・若者中・裏面不明・右側面天保十己亥年9月（1839）左右同じ。

交通アクセス　北勢線楚原駅より徒歩1分

曽原御厨天白神社〈員弁町楚原559〉

御祭神　天照大御神

田圃の中に古木鬱蒼と茂り、枝が地を這うようにしている。境内の木を切ると神の祟りがあるとの伝説がある。

元暦年間（1184）再建。神宮の神領地として楚原，御薗御厨となったとき、牛頭天王社を勧請している。

8月の10日に近い日曜日に、「天白さん」と呼ばれる山車の巡行で賑わい、夜は納涼をかねて見物に出かける人が多い。

交通アクセス　北勢線楚原駅より徒歩3分

71 土木遺産のねじり橋 〈員弁町下笠田1361-1〉

ねじり橋（三岐鉄道北勢線の拱橋）

工事の銘板

めがね橋（明智川穹窿橋）から東300mほど離れたところに、ねじり橋がある。

正確には六把野井水拱橋といい、絶妙な勾配を駆使して流れる六把野井水が、線路に対して直角ではなく40度の角度で交差している。そのためかこのアーチ橋は現在わが国で存在が確認されている、唯一のコンクリートブロック製のねじり間歩である。

ねじり間歩（型枠整形が不揃い）は現存する斜拱梁の最大のスパン(9.1m)、最急斜角(40度)である。「日本の近代土木遺産―現存する重要な土木構造物2000選」（土木学会出版）に選ばれ、Aランクの評価を得ている。

最も重要な土木遺産でAランク指定は国指定重要文化財に相当するといわれている。建造当時（大正5年）は世界的に鉄骨資材が不足であったようで、知恵と工夫により石積みに似せたコンクリートブロック製になったといわれている。

交通アクセス 北勢線楚原駅より徒歩15分

72 一対の虎の欄間 八英山 白蓮華院 眞養寺 〈員弁町楚原345〉

真宗大谷派　御本尊　阿弥陀如来

天正２年（1574）江州（滋賀県）の一向派の本山八葉山蓮花寺の住職、麟龍が当地に隠居して、御薗坂の上に一宇を建立した。元和7年（1621）三代目蟠龍の時、本山から戻る途中、上石津土岐（時）郷唯願寺の御正忌に参詣し、明覚、明敬親子の説教を聞き、真宗大谷派に改宗した。そして、東本願寺初代法主教如上人より「大橋」姓を賜った。寛永12年（1635）笠田新田と大泉新田の開発、野摩池（現在の笠田大溜）の改修工事を桑名藩に願い出て、翌年より工事が始まった。起工式には藩主松平定綱公が参列、以後三度、笠田大溜に来遊、舟遊びをされている。その時の常宿が眞養寺で食事の内容も記録されている。定綱公は質素を旨とし、お供は10人程度、食事は一汁三菜とし、たまご、イサダ（小魚）鯉など、野菜はゴボウ、里芋、カボチャであったと記されている。眞養寺の鐘楼門は宝永３年（1706）建立、平成15年新築、再建されたが、左甚五郎の一番弟子の作と伝わる虎の彫り物の欄間1対は、本堂で大切に保管されている。

一対の虎の欄間

交通アクセス 北勢線楚原駅より徒歩5分

73 畑新田の槇（まき）ノ木 〈員弁町畑新田175〉

いなべ市指定天然記念物

木の高さは15m、枝幅15m以上もある大きな木で、樹齢は約700年といわれている。

このような大きな槇の木は、近隣にほとんど見られず、約700年の間風雪に耐え生きのびてきた強靭な姿は、この木を見る人々に荘厳な気持ちを抱かせる。

交通アクセス　北勢線楚原駅より徒歩30分

74 先人を偲ぶ　岡古墳1号～3号墳 〈員弁町岡丁田1978〉

いなべ市指定有形文化財

古墳の1号墳（前方後円墳）は全長約41.5m、高さ5.5mの規模を有している。大正年間に一度掘られたことがある。中は横穴式石室で副葬品に水晶の勾玉や剣が発見されている。

2号墳は、1号墳より南方30m離れた丘陵部にあり、明治末期に子良神田神明社が建てられ残っていない。古老によると直径10mの円墳で、横穴式石室があったと言われている。この石室の天井石と思われる2個の石が神社の石門になっている。

3号墳は、2号墳より10mはなれた所で、ぼうず山とも呼ばれ、戦後間もない頃、開墾によって墳丘の北半分が壊され、石室に使用されていた石が各所に散在している。

交通アクセス　北勢線大泉駅より車で10分

75 藤原小黒麻呂伝承の大谷神社〈員弁町東一色〉

拝殿

東一色大谷神社は鎮守の森に囲まれ罔象女神（みずはのめのかみ）を主神にお祀りし、春日神社〈藤原氏の氏神〉の４柱も祀っています。拝殿正面には左大臣（紫の衣）右大臣（赤い衣）が鎮座したお宮さんです。境内には大泉村の由来となった池があり整備されています。神社の歴史は大変古く、その昔は小黒宮と呼ばれていました。宝亀11年（780）小黒麻呂が蝦夷征伐の命を受けて奈良から東北地方に向かわれる途中、当社で戦勝祈願をし、帰路にも奉告参詣されました。

その年、桓武天皇が即位、天応と改元、その後延暦12年（793）東夷（あずまえびす）征服祈願の為、奉幣使（ほうへいし）（勅命により神宮や神社に出向いた使者）として再び参詣しました。この地に逗留中、病気にかかり62歳で亡くなられました。この時以来村人は当社を小黒宮と呼ぶに至ったそうです。境内の西南には小黒麻呂の墳墓と伝わっています。嘉永元年（184）参道を改修中、巨石の重なっている中から太刀、花瓶、香炉、陶器類がたくさん出たので元どおりに埋蔵されました。

大谷神社の泉

交通アクセス　北勢線大泉駅より徒歩10分

76 大泉新田地蔵堂（じぞうどう）〈員弁町大泉新田221〉

この地蔵堂は昭和6年（1931）1月24日、滋賀県伊香郡木之本地蔵院の分霊を祀った地蔵尊で、8月23日が地蔵盆である。

四海波記念碑南側にある地蔵堂

郷土の力士　四海波（しかいなみ）記念碑〈員弁町大泉新田221〉

四海波記念碑

地蔵堂の北側に記念碑が建てられている。

天保6年（1835）大泉新田に生まれ、安政2年（1855）19歳で境川大関の門に入って大泉清八と名乗ったが、文久3年（1863）幕下に進み、元治元年（1864）伊勢浜萩右衛門と改名。明治4年（1871）3月入幕を果たし、翌5年四海波静太夫と改名した。

明治7年（1874）3月西前頭二枚目迄進み、その後中堅として活躍したが、同12年（1879）6月東前頭四枚目で引退した。

碑は明治26年（1893）に組・親類が発起人となり、宮守中の世話によって建立した。

交通アクセス　北勢線楚原駅より車で5分

77 大泉新田神明社と顕彰碑〈員弁町大泉新田543〉

御祭神　天照大御神　他5座

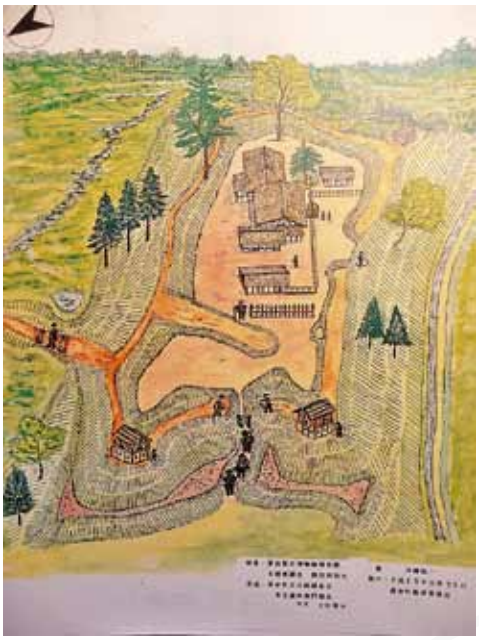
寛永13年（1636）1月大泉新田開発功労者、庄屋正木嘉兵衛が笠田大溜に勧請した神明社の分霊を遷座した。同年8月正木嘉兵衛は桑名藩主松平定綱公の許可を得て原野、100町歩を約11年の歳月をかけて開墾（現在の大泉新田）。当時の野摩池を笠田新田の庄屋、二井理兵衛と共に改修し、笠田大溜を築造。開拓地に水を引き、水田開発に尽力した。その功労に対する顕彰碑が、旧員弁街道（旧濃州道）沿いに建てられた。また社殿屋根瓦、提燈、半纏には定綱公を称賛する意味で、「梅鉢文様」が施されている。神社境内にある山車庫には大変立派な山車が保管されている。平成以前は、毎年山車を操り出して、弁天祭りが盛大に行われていたが、近年は山車を引く若い人が少なくなったので、数年（不定期）に一度山車を繰り出して、弁天祭りを継承している。尚、庄屋正木嘉兵衛の末裔により当時の貴重な古文書等が大切に保管されている。

梅鉢の紋の入った標柱

正木嘉兵衛の顕彰碑

交通アクセス　北勢線大泉駅より徒歩20分

78 強固な守りが残る　金井城址〈員弁町北金井1206～1226〉


金井城復元想像図

いなべ市指定文化財

永禄2年（1505）種村大蔵大夫高盛が築いたもので、金井城と呼ばれている。天正4年（1576）頃までここに城砦があった。

時の城主高盛〈元亀3年（1572）88歳〉は江州佐々木家六角氏頼の末孫で、江州神崎郡種村郷に居住したもので種村氏を称した。

永禄11年（1568）織田信長の侵攻の時に抗戦したが、降服して信長の支配下となった。高盛の4男種村弾正左衛門秀政の長男種村千代次秀信が後を継いだ。

天正4年（1576）秀信は滝川一益に心変わりしたとの疑いをもたれ、伊勢長島城に呼び出され、自決して果てた。家人は城を焼いて皆散々になったと伝えられている。

城跡は南北120m、東西60mの城であった。当時としては地の利を得た堅固な城であったと思われる。

交通アクセス　北勢線大泉駅より車で10分

79 春日神社〈員弁町西方407〉

山の神碑がある春日神社

御祭神　天児屋根命　他2座

創立年代は不詳で、桑名春日神社の分霊を奉祀したと伝えられている。文政8年（1825）本殿を修理し、氏神として崇めるようになった。境内には山の神碑が祀ってある。

交通アクセス　北勢線大泉駅より徒歩10分

西宮稲荷社〈員弁町西方425～426〉

御祭神　宇迦之御魂命

明暦3年（1657）に創建され大正2年（1913）3月金井神社に合祀されたが、その5月8日に再び元の社地に奉祀した。

交通アクセス　北勢線大泉駅より徒歩10分

遺功碑〈員弁町西方413〉

道標は西方下組より春日神社に通じる道の途中にある。側に明治30年の災害復旧に尽力した遺功碑が建っている。

交通アクセス　北勢線大泉駅より徒歩10分

出口宗九郎氏遺功碑（左）と道標（右）

80 長い参道　大谷神社　長宮〈員弁町大泉1202〉

由緒ある大谷神社

珍しい鹿の狛犬

御祭神　天児屋根命・水別大神　他3座

天児屋根命は春日大明神といわれ、その昔奈良の三笠山から桑名へ分霊遷座の際にこの地に休輿されたのが由緒で、今の地に創建されたと伝えられている。

宝物には、16善神絵像に大磐若経壱巻永享11年（1439）10月と裏書記入されており、高麗犬1対胸に寛文10庚戌年（1670）、大谷宮宝と記入されている。

また、大谷春日大明神の額壱面（梶井宮揮毫）文化5年（1808）法親王の書と、大安町梅戸字中川原から出土した古代のままと伝えられる神鏡がある。

交通アクセス　北勢線大泉駅より徒歩5分

81 地域の貴重な交通手段　三岐鉄道北勢線〈桑名市～東員町～いなべ市〉

西桑名駅～阿下喜駅　２0.4km

明治の末頃、日本全国で鉄道敷設の機運が高まり、北勢地方も例外ではなかったが、一般の鉄道は膨大な初期投資が必要で、各地で計画倒れになっていった。そのためレール幅762mmで、設備の軽備な鉄道が考え出され、明治40年頃（1907）から急速に軽便鉄道人気が高まった。明治43年４月公布の軽便鉄道法に基づき、翌年敷設免許申請が出され、明治45年1月免許が下付された。同年（大正元年）資本金25万円の北勢鉄道株式会社が、発起人・役員・出資者すべて桑名・員弁の人で設立され、沿線住民による、住民の鉄道として発足した。併行して用地買収も行われ、翌年桑名で起工式が行われた。大正３年（1914）４月８日から桑名別院で親鸞聖人650回御遠忌が行われるため、４月１日完成をめざした。大山田（西桑名）～楚原間（14.5ｋm）の工事がほぼ完成、２日から検査を受け、運行に支障なしとの検査報告書が４日に提出され、同日18時に政府の鉄道院より営業許可が出された。大正３年４月５日に大山田～楚原両駅から一番列車（蒸気機関車）が発車した。蒸気機関車はドイツのアーサーコッペル社製で３両あり、客車５両、貨車６両でスタートした。翌年、桑名町（京橋）～大山田（0.7km）が開通（この区間は昭和36年（1961）まで運行し廃止）。大正５年８月６日に楚原～阿下喜東（六石）４.６ｋmを延長、所要時間は１時間２０分であった。この区間の工事は、大正３年７月に始まった第一次世界大戦の影響を受けて、資材が高騰し、極めて難工事になったが、めがね橋、ねじり橋にみられるように当時の関係者の創意工夫で切り抜けた。昭和６年（1931）７月８日阿下喜東と阿下喜間が開通、桑名町～阿下喜間が全通し同時に全線電化され所要時間は１時間になった。

その後、幾多の変遷を経て、近畿日本鉄道が平成12年に廃線表明したことにより、沿線市町が三岐鉄道に存続運行を依頼・支援し、現在の運行が存続されている。

大正５年の記念列車

鉄道院文章

完成間近の山田川橋梁（大正5年）

日本で３路線しか残っていない貴重なナローゲージの鉄道、北勢線を地域の貴重な交通手段として、先人の努力に報いるためにも、ますます愛され走り続ける存在にしたい。

三笠橋より鈴鹿連峰を望む

「古今集巻第二十」

君が代は　限りもあらじ
　長浜の　真砂の数は
　　よみつくすとも

これは仁和（にんな）の御賀（おんにえ）の伊勢国（いせのくに）の歌

「蓮如上人」

流れ行く　水にしがらみ
　あるとても　若気を止むる
　　しがらみはなし

文安六年（一四四九）春　三十五歳
麻生田地内の員弁川にて
「行順寺御絵伝差図」より

いなべのことば 言い回し

前回の『ふるさとの紹介』の発刊時にいなべの言葉（言い回し）を載せましたところ、大変好評を頂いたうえ、たくさんの方からさらにいろいろな言葉をお寄せいただき有難うございました。紙面の都合もありすべては取り上げることはできませんが、６８語を選んで第3版で追加しました。これらの言葉の中には市内の一部の地域でしか使われていない言葉もありますが、そのようなものも少しでも残しておきたいと思い記載しました。

いなべの豊かな自然、人々のくらし、労働の中で生まれたいなべの方言の語彙は時代とともに変化してきましたが、その他アクセント等はほとんどそのまま、時代に対応して進化してきました。今では地域の人の気持ちを正しく伝えられるあたたかい、ぬくもりを感じさせる言葉となっています。この現在の語彙（言い回し）を伝えて行くことは大きな意義があると思いここに記録しました。

今も使われている言葉のいろいろ

あ

あいさ／（あいだ「間」）２点間の間、二つの時点の間　{この＿＿＿、ちょびっとせますぎてわしは通れんで、遠周りするわな}

あいまち／（過ち）過失をいい、怪我の時に使う。滋賀県でも使用{脚立を踏み外した＿＿＿＿でね}

あか、あかし／（赤ん坊、赤ちゃん）{＿＿＿が生まれたと、おお、元気よう泣いとる泣いとる}

あすってん／（仏壇におまいりするとき、食事の前後のときのお祈りの言葉）{お仏壇のお供え物＿＿＿＿してから、下げてきてな}

あたたい／（ひどい、えげつない、態度が変わる）{そのような＿＿＿ことはやめときなはれ}

あとまい食う／（先を越される、後の祭りという意味も入る））{しもたっ、“あとまい食ったぞ“、そんなら何とかかんこして、その分取り返さなあかん}

あびる／（およぐ）{あんな危ないとこで“あびたら”あかんがな}

あやかしたもの／（弱々しいもの、見かけ倒しのようなもの）{こんな＿＿＿は、すぐだちやくぞ}

あわさい／（あわい「間」）{あれっ、この本の＿＿＿に手紙はさんでおいたのにないわ}

いきっとる／（興奮している、いきり立っている）{えらい“いきって”ござるね}

いこ／（反対言葉）{＿＿小さな芋やな}　「大変大きな芋ですね」{＿＿＿降らまいか}「大雨の時」　なおよけも反対言葉として同様に使われる。{よけ軽いな}「これは重たいな」

いしごりした／（大(おおご)懲りした）{本当にえらい目におうたので＿＿＿した}　懲りるを強調した表現。

いしな／（石、小石）三重県方言では石、ただし、名古屋弁では小石　いなべでは両方が通用している。{この大きな＿＿＿　ちびっと動かしておくれ}

いっけ／（親戚同士、一統）{こちと、うちは濃い＿＿＿です}

いっすに／(ちょこちょこ){お忙しい所を主人が_____おじゃましまして、こらいてね}

いなう／(担(にな)う、荷う){天秤棒を“いない棒”ともいいます}

いびしょな／(可哀想な、ちぢこまる){謝っているではないですか、そんな_____こと言いなさるな}

いろむ／(果物が熟す){この柿ええ色に”いろん“だね。もうじき採れるね}

ういこと／(憂(う)いこと)いなべではおもに悔やみごと等、相手の気持ちを推測して(つらい、気の毒、悲しい、大変、申し訳ない等)を表現するときに用いる。{ええ人でしたが急にしもてかれ(亡くなられ)、_____でしたね(気の毒に)}{たくさんお祝いもろて“ういこっちゃった”ね(申し訳ない)}他に「ういことなぁ、ういことにね、ういことやね」ともいう。

うぐろ／(もぐら)「うぐろもち」{苗植えても、_____がうねに穴あけ、みな枯れた}

うざこい／(煩わしい、うっとうしい){毎日雨ばかりで、_____なあ}{あいつがからむと_____で}

うたて／(申し訳ない、気の毒な事)「ういこと」と同じで状況により意味合いが変わります。{いつももろてばっかで_____やね}「うたてこっちゃね」ともいう。

うんたがきれん／(決断力が無い){あの人は_____で物事が前へ進まんわ}

ええころかげん／(いいかげん、いいころかげん){この仕事は、ぜにかねで頼まれた仕事でないんで、_____にはできやん}

おいね／(年上女房){あしこの夫婦は“おいねて”ござる}

おいねる／(背負う){大黒さんは大きな袋を“おいねて”ござるなあ}

おおだい／(お金持ち){あそこは_____やで、わしらと一緒にならん}

おかどがひろい／(付き合いが多い){_____のにうちまで呼んでもろて}(法事によばれた挨拶等)

おくれ／(下さい)丁寧語の接頭語お＋呉れるの命令形呉れ の形で珍しい形。大阪弁の命令敬語 “おくんなはれ”が変化したか。{かあちゃん、おやつ_____}

おし／(味噌汁)いなべでは共通語のお汁から「る」がとれて、澄まし汁には使わずに、味噌汁のみにつかう。{この_____加減ようて、うまいなあ}

おしゃべ／(お喋り)お喋りの「り」を取ったもの、あちこちをしゃべりまわる人をいう。{あの人に聞かれたらえらいことやぞ、なにしろ_____やでな}

おせかく／(ねぎらいのことば、準備が大変やったね等)“せんど”と同じで、すこし改まったときに使う。{それどこではなかったやろに、_____しておくれやったね}

おぞい／(みすぼらしい、劣悪な){_____顔色しとるな、熱があるのと違うか}

おだいはんがつきる／(この世で食べたいものは全部食べ終える){あの人は_____までたべてしもてかした}

おだつ／(ふざける、はしゃぐ、調子に乗る)北海道、宮城、福島、富山、福井と三重県北部で使用{ここで“おだったら”あかん}

おぢょくる／(軽い気持ちでからかう){年寄りを_____もんではない}

おててこてん／(満腹しました)いなべのある地域でつかわれている。{もう一杯いかがですか。もう_____ですわ}

おぶ／(負ぶう)共通語ではワ行5段活用が、いなべではバ行5段活用になる。{しっかり“おばれとらな”あかんに}

おぶ／(お茶の幼児用語){のどが渇いたわな、さあ、_____あげよ}お茶もお湯も単におぶと言う，上のおぶとはアクセントが異なる。

おぶっぱん／(“お仏飯”仏さんに供える御飯)いなべでの呼び方。
「おぶくさん、おふくさん、おはっさん(御初飯)、ごはんさん、ごはんさー、おぼくさん、糧供膳(りょうぐぜん)」
{_____をすえてきてな}

おみ／(君)江戸時代、医者や儒学者が使用した。{そこが____のあかんとこや}、後期には寺子屋の先生も使った。明治時代後半から、学校の先生がよく使用した。

おみんた／(君たち){_____、宿題はきちんとやってきたかな}

おめとる／(人見知りする、はずがしかる){普段はおしゃべのくせに初めて会う人やでこの子たら、しっかり_____ねー}

およずく／(かたむく){その柱前へ少し“およずいとる”で、まっすぐにせな、けたが乗らんぞ}「かえる」ともいう。

おわってくる／(覆いかぶさってくる){隣の竹が雨のたびに_____んで、困ってます}

か

かいとまわり／(青だいしょう){昔は_____は大事にしたもんやで、蔵に居ってもらうと鼠が来んでな}

かえこと／(交換する){鞄とリュックを_____しよう}「かえっこ」ともいう。

かざがく／(匂いをかぐ){あの人は美味しいものがあると、すぐ“かざがいて”やってくるよ}

かさまい／(裏がえり、反対、あべこべ){その服、_____やんか}また「てれこ」ともいう。

かずく／(担ぐ、だます、縁起を気にする){あの話には“かずかれ”た}「かずぐ」ともいう。

がせ／(がさがさと騒がしい人物または行動)がせは「がせねた」等、偽物の意味もあるが、いなべでは騒がしい行動をいう。{____ ____するな}

かたきしから／(片端から){あの人はようけの仕事を、_____要領よう片づけていかっせる}

かっためっこ／(かわりばんこ){これから食事の後始末は_____にしよう}他に「かったりべんこ、かったみに」などという。

がとおな／(大きな){またまた、そんな_____話して}「がとーな」ともいう。

かめかう／(とりちがえ、勘違い){あんまり忙しいので、順番を“かめこうてた”わ、すぐするので待ってて}「かめかい」ともいう。

がも／(人一倍欲の深い・ひどい人){あの人は_____やでな}

がもが来る／(妖怪が来る)語源・蘇我馬子が596年に飛鳥に創建した法興寺が、平城京に移設され、元興寺となった。やがて、鐘楼に鬼が住むと言われだした。ガンコウジは鬼か妖怪を意味するようになり、親の中門の仁王像をまねたり、鬼の吠え方ガオーで子供を嚇(おど)すようになった。応仁の乱以後近江の蒲生郡観音寺城はたびたび攻められた。その都度、観音寺城の人は城を離れ、甲賀の山中を根城に、ゲリラ戦で対抗し、城を取り戻した。そのため周辺の人々は蒲生を妖怪のように恐れ、ガモウが来ると子供をおどかすようになった。いなべには「ガモ」が来ると伝わった。{はよ寝やんと_____ぞ}

かやくめし／(五目御飯、塩飯、味御飯、混ぜ御飯){今夜は_____やでたのしみやな}

かわいらしごかし／(可愛がり過ぎ、甘やかしすぎ){あんだけ_____をしては問題やな}

かんこする／(考える、くふうする)美濃ではかんこしると言うようです。{そこを一つ“かんこ”しておくれ}

かんたろう／(酒のお燗をする人){今日のよばれは_____をたのまれたわ}

かんぴんたん／(生き物がからからになったもの){カエルの_____}転じて物が大変うすくなったものも云う。{今日はパチンコでやられて財布が_____になった}素寒貧のかんぴんとは無関係。

ぎなぎな／(すっきりしない、どうにかこうにか){おかげさんでほっこりはしませんが、なんとか_____しています}

きばる／(がんばる、りきむ){さぶいのに畑仕事"きばって"ござるね}

きびしいことですが／(ご無理を言いますが)　言いにくい事を言う時使用　{何としても今日中に欲しいので誠に_____、なんとかお願い致します}

きゅっきゅっ／(ぎゅうぎゅう){そんに_____にしたら、中身がわやになるぞね}

きんの／(昨日){_____　は有難うございました。}近畿の方言だが三重県では四日市以北しか使われない。

ぐさぐさ／(ゆるい、ぐらぐらする){そのくくり方では_____やで、すぐにほどけるぞ}　「ぐさつく」とも言う。

くすべ／(透かし屁)

くろ／(隅っこ、はし){狭い道やですれ違い無理や、もっと_____へ寄って下さい}

けんたい／(当然、当たり前){ここは遠慮せんでもわしらが_____で使える場所や}

ごーかき／(さらえ){明日はグランドの周りの草を刈って、後始末をするので、草刈機と_____を持って来てください}

ごうさに／(ご馳走に、世話に、造作に){今日は子供までよんでもろてほんに"ごうさ"かけましたね}他に「ごーさ」、「ごうさし」とも言う。　語源は"ご造作、ご雑作"からか、他のいいまわし有。下記「ごぞさやね」、「ぞうさしやね」参照。

こうべったらしい／(こしゃくなこと、口達者){まだ子供やのに大人以上に_____事を云うで可愛くない}

ごえんさん／(ご院主、ご住職)滋賀県東部でも使われる。{_____、今帰って行かした}ほかに「御院住、お寺さん、方丈さん、おじゅっさん、和尚さん、おっさん、おっさま、ぼんさま、老僧(前住職)、若さん(後継住職)」ともいう。

こおとい／(じみな)三重県北部で使用。名古屋でも使われるがアクセントが変わる。{この着物にこの柄では_____でしょう}

ござる／(来られた、お見えになる){ごえんさんが"ござった"でお茶のまわしして}・語源　ござるは本来「あられる、いられる」意の「やんごとなき方々」への尊敬語であった。平安時代の中ごろには「来る、行く」にも使用されるようになる。鎌倉時代になると、さらに「あり(有)」がついて、御座有(ござある)となり、江戸時代初期に「あ」が抜けて「ござる」になり、現在ではこれらの軽い尊敬語になった。

…こされ／(こそあれ)こそは係り結びの助詞、関係の言葉を強調している。{親より_____話しにのってもらえるんやで}

こじょ／(幼い女の子){あれ、可愛らしい____がでてきたね。ちょっと　あんたこのうちの子か？うん}

こすい／(賢い)こすいは通常ずるい、悪賢いだが、いなべでは年寄りが、子供が年寄りの言うことをよく聞くときに、褒め言葉として使う。{裏の子は_____こやね}

ごそわら／(笹や少し背の高い草の原っぱ)県内では中勢以北、県外では滋賀県東部で使用。{蜂が巣をしとるんで、_____へ入ったらあかんぞ}

か

こせばい／(少し狭い、こせまい){この道この先“こせば”なるんで、気いつけてな}「せばい」は「せまい」の古い形、“こ”は、小高い、小寒いの“小”で少しを意味する。

ごぞさやね／（面倒をかけたり、もてなしを受けたりしたとき等に感謝の意をいい表す言葉）「ごうさ」参照

ごたぎ／(お世話になりましたね、ねぎらいの言葉)(御祝いにいって)相手方から{そんなに_____してもろてすみませんね}　こちらからは「_____さんやったね」と過去形になることが多い。

こっぺり／(全部)　こっぺらとも言う{_____持っといで}

こべこべ／(こてんこてん){今日の将棋、つづけざまに_____にやられてしもた}

こぼ／(幼い男の子){_____はどこの子や？　}

ごめんなされ／(御免下さい)「ごめんなして」「ごめんなはれ」ともいい、いなべでは「ごめんなさい」の更なる尊敬語として用いる。

ごんたまく／(無理を言ってすねること){ほれ、あの子また“ごんたまいとる”よ}、「ごんたまき」ともいう。(権太は歌舞伎の義経千本桜の人物・いがみの権太)

ごんたれ／(手におえない悪がき)いがみの権太のような子供{あの_____はなんともならんな}

さ

ざいはらい／(はたき、さんぱらい){_____は振り回すもんやのうて、桟の埃をはたいてきれいにするもんや}

ささこい／(動作がすばやい、機敏である){あの人は_____人やでな}

ささって／(３日後){_____、一緒に桑名へいこね}　いなべ市内でも所によっては３日後を”しあさって”という。

さしてくる／(気分が高ぶる、痛みがじわじわくる、胃けいれんの痛み){あ、あ、さしてくる、さしてきた、さしてきた}新任のお医者さんは訳が解らず困られたそうです。

さっせる／(為る「する」の尊敬語　される」　共通語「さっしゃる」　から　いなべでは「さっせる」に転、{お宅はこのようにきれいにして、なに_____んやね}三重郡でも使用、その他愛知県春日井市、岐阜県不破郡などで使用。

さんまい／(火葬場)共通語では、三昧場の場が省略された形で、墓場、墓地の意に用いられるが、三重県では火葬場を意味する。

しがんだ／(くず、育ちが悪い)豆の実などが、完全に成熟せずに表面がしわしわの様から、転じて植物だけでなく、動物や人なども未成熟のままのようすをしがんだと言う。{今日はあの_____の鶏をつぶして食べようか}

しっかり／(いなべの方言的いいまわし)　共通語では”しっかり”＋「…する」の形でしっかりが使われている。しかしいなべでは「…い」という言葉の前にはしっかりがきて、しっかり＋{…い}で{…い}の状態、程度を強調する役割をする。しっかり＋「寒い、遠い、早い、赤い、大きい、広い、明るい、等」　{今日は_____暑いのに、力仕事は_____えらかった}　{ここまで来るの_____遠かったです}　{今年は_____寒い日が続くね}

しなはれ／(しなさい)「する」の敬語「しなさる」の転「しなはる」の命令形{はよう_____}

しまつがええ／(倹約、質素、しまり屋)始末がええの始末は片づけの意味からの転。
{あそこの嫁は_____}

しもてかした／(亡くなられた){隣のおじさんがゆんべ_____}、他に「参らせてもらわした」ともいう。

しゃだれがする／(大雨が降る){ゆんべは“しゃだれがした”ね}

しゃちがく／(生意気にさしでる、でしゃばって世話をやく、しゃしゃこやく、さいこやく){本人がやる気になっとるで、あんまりはたから“しゃちがかん”と、そっとしとって}

じゅるい／(ぬかるんでいる)(新しいおべが汚れるとあかんで_____とこへは、行かんように)

しょうけ／(小笊(ざる)またはかご){そこの_____とっておくれ}“しょうき”ともいう

しょうどがない／(だらしがない、しまりがない、しょうもない){あの男は_____奴でね}

しょずむ／(つまむ){手で食べ物を“しょずまない”で下さい}

しょぶたれ／(汚い、さっぱりしない){昔はすっきりとしたええ男振りやったけど、今は年も取りしょぼくれて_____とるなあ}

しわこい／(湿った){_____風が吹いてきたで、雨が落ちて来るな}

しんけんまんけん／(一生懸命、精一杯){もうこれ以上は無理や、_____やっておるんや　わかってくれや}

ずたる／(ずり落ちる、座ったまま少し移動する){あいまち(怪我)の後からほっこりせんで、毎日“ずたって”います}

すってらてん／(まったく無い){財布が_____になったので}他に「すっからかん」、「かんぴんたん」という言い方もある。

ずつない／(つらい、苦しい、しんどい)「術ない」の転で、手のほどこしようが無い。{美味しかったで、よけ食べすぎてしもて_____わ}「身体的な時は、ずつない・精神的な時は、きずつない」

すっぺり／(全部、のこらず){手伝ってくれておおきに、これで_____かたづいたわ。}他に「こっぺり」、「ごそっと」、「すべっと」　ともいう。

すまんね／(ありがとう)共通語の「すまない」という断りの言葉にいなべの丁寧語「ね」がついたもの、「すみません」という断りの意味と「有難う」という意味がまざっていて、「ありがとう」の意味が強い{長い間待たせて_____}「すまなんだね」ともいう。

すんずりせん／(清々しい気持ちになれない){こないだから、なんやしらんが_____}

ずんと／(…の延長線上に){この_____のあぜに杭を打っとくれ}「ずんとう」ともいう。

ぜらたい／(ふざけた){あいつはいつも_____話ばっかしとる}

せんぐりせんぐり／(じょじょに、じゅんぐりに、順次){_____、身体が回復してきました}

せんど／(程度の甚(はなは)だしい様子を表す語)　いなべでは「よく頑張ったね。」と言う時に使い、親しい間柄の相手を思いやる言葉です。{_____しておくれたのに、気の毒なことでしたな}{立派な家で、今日は家移(やうつり)だそうね、_____しておくれるね}

ぞうさしやね／(世話をかけるね、おてまいりやね)「ごぞうさ」よりもっと親しい間で用いられ、「ごぞうさ」から“ご”がとれ、後に“やね”が付いた。{今夜はうちの人が邪魔するが_____。なんのなんの}

ぞうよ／(必要な諸経費・雑用金の略){_____がようけかかるんで困ってます}「ぞうよう」ともいう。

そーやね／(そうですね)共通語の「そう」にあたることば{_____、あんたの言うとおりやね}

そこずりおぼたい／(とても重い、持ちかねる){この荷物“そこずりおぼとうて”腕が抜けそうや}

ぞべ／(うどん){今夜はぬくたい_____にするか}

た

だかえる／(抱き抱える)(いなべでは直接両手でかかえるときにしか使われない)　{大金の入った鞄なら、ずっと“だかえて”ますけどな}

だだぼだ／(むやみやたらに粗末にする){_____にしたらあかん}

だだらにしたらあかん／(粗末にしたらいけない){物を_____}

だちあかん／(はかどらない、駄目だ){“埒(らち)が明かん”の「ら」が「だ」に変わった言葉}中部地方では“ら”と“だ”が入れ替わりやすい。北勢もこの傾向がある。最初京都では“らちあく(事が解決する)”が使われていたが、いつの時からか“らちがあかん”と解決できないほうが主流になった。{約束の物、三日も待てと、そんなこと_____}、通常は「だち」を省略して「あかん」(駄目)が使用されている。名古屋を始めとして中部地方で“だちゃかん”とか“だちかん”とかいう。「埒(らち)は聖域に人や動物が入るのを防ぐ垣」

だちかき／(草削り){来週の日の日曜日のグランド整備には、鎌と_____を持ってきてください}
西濃地方も草削りを「だちかき」と言うようです。

だちない／(節度がない){そんな_____話、聞いたことがない}、かっては「らちもない」と使われた。NHK の大河ドラマにも出てくる。

だちやく／(壊れる、とりとめもない)「だち」は「らち」の転、らちあくとは物事が解決するという意味、あくがやくに転、さらに物事の解決が悪い方に解決するに変化、{そんに夜昼なしに仕事すると身体が_____ぞ}

たってった／(飛んでった、飛ばされた){強い風で帽子が_____}

だんない／(かまわない、どうでも良い){_____で少しまけてあげな}

たんびたんび／(その都度、ちょくちょく){そう_____もろてばかりで、わるいね}

ちょうけたもの／(見た目だけのもの)ちょうけるからの転か{そんなやにこい_____ものでは、すぐだちやくわ}

ちょうける／(ふざける、おどける){何時までも“ちょうけとらん”と、はよかたづけな}

ちょうさいぼう／(嘲才坊、人を愚弄(ぐろう)する、からかう){人を_____にするのもええかげんにしな}

ちょっこらちょい／(簡単にいかん){あんたはほんの２、３日でできると簡単に言うが、私はこんな難しい仕事_____には出来ません}

ちょぼっと／(少し){もう_____のませて}他に「ちょびっと」「ちびっと」ともいう。

つくぼる／(しゃがむ)(目が回る？・・立たんとそこらで少し“つくぼっとり”なはれ)

つついっぱい／(精一杯、きっちり一杯){_____の日暮し}語源・昔は銭を筒に入れて枚数を測った。「てていっぱい」ともいう。

つぼろく／(まるはだか){おいおい、この子_____で走り歩いているよ、はよう着物着せたって}、他に「つぼろこ、つぼどん」ともいう

つむ／(混んでいる){電車が“つんでて”座れませんでした}　車が渋滞しているときに“道がつんどる”ともいう。

つもい／(窮屈、きつい){このズボン_____、破けそう。太ったのかな}

つる／　(運ぶ、ぶらさげる、かつぐ){蚊帳を_____}{机を_____}

てご／(雑役){わしは_____で雇われてます}

てこここしい／(手塩に掛ける、てまめにする){このおかずは野菜中心の“てこここしく”作った料理で、愛情の籠もった料理です}“てごこましい”の変化したものか

てったいこ／(互いに助け合う){今の田植えは機械がするが、昔の田植えは手植えやで、隣と_____したもんや}「てったいあっこ」ともいう。滋賀県とも同じで「てつだい」の「つ」が「っ」になり、「だ」が「た」になって「てったい」となった。

てっとって／(てつだってね)「てつだうておくれ」が「てつどうとくれ」になり、「てっとって」になった。いなべの周辺で変わっていったようなのでいなべの方言として取り上げたい。

てれこ／(はんたい、さかしま){おい、その柱にしひがし_____になっとるぞ}

でろ／(わんぱく)何処か他所(ほか)で使っている所は、見つけられなかった。{あの子の小さい時は、それはもう_____でなあ}

てんせに／(よく、時々){子供が_____おじゃましまして、ごぞさになります}「てんせん」ともいう。

でんち／(袖なしの綿入れ半てん){今日はしっかりさぶいんで、なりふりかもとらんと、____着なはれ}

でんでん／(満腹){おかわりどうですか。もう_____ですわ}　他に「てんてん」とか「おててこてん」ともいう。

てんぽもない／(法外な、途方もなく、無茶な){これは400円くらいかな？いやいやこれは上物やで1500円やわな、そんな_____値段するんかね}　「とばすな」ともいう。

どうあろや／(なんともない、どうということない){そんなもん_____}

どうぞこうぞ／(どうにかこうにか、なんとか){わずかな畑と年金で_____生活しています}「どうぞこぞ」ともいう。

とちめんぼ／(狼狽する、不意な出来事){はよせんと_____食らうぞ}　栃麺(栃の実を粉にしてにぎり平状に延ばした物で作る麺)を作るときに、わずかな時間で粉を握ったものが突然“ちぢみ”、まったく延びなくなる。だから麺棒を素早く扱い手早く延ばさないといけない。それでもよほど気を付けていないと慌てなければならない様から。

とぶ／(走る、駆ける、){あの子が僕たちの組で一番早く_____よ}

とぼとぼ／(日が暮れてうす暗くなってきた状態){もうはい_____してきた}「とばとば」ともいう。

どもならん／(どうもならん、がまんできん、やりきれん){夜中に猫が鳴きまくるのでなんとかしてくれ、_____わ}

とらます／(捕まえる)“とらます”は捕えると摑(つか)まえるを混ぜ合わせた言葉。まぜあわせはいなべの言葉に多い　{リハビリのおかげで、なんとか手摺(てすり)を_____ことが出来たぞ}「とらまえる」ともいう。

とんご／(10　10歳){可愛い娘が_____になりました}「ん」＋「ワ行」が「ガ行」になる例が滋賀県にもある。例　かんをけ(棺桶)→かごけ

とんでった／(急いで走る){あの車えらいスピードで_____}

とんと／(すぐ){_____のまん前}{探していたボールペン_____のねき(直ぐ傍)にあったわ}「トット」から変化したか

どんと／(沢山)(_____持てるだけ)他におなじような意味で「どっさり、どすんと、ぎょうさん、がとおに、ようけ、ようさん、てんぽな、やまやま、しこたま、たんと、うなるほど」等がある。

とんぼ／(突然、出し抜け、不意){要予約の店をやってますが、80%のお客さんは_____にひょっこり、やってきます}

な

…な／(助詞) 三重県では伊勢の「な」言葉と言われるほど文節ごとに「な」がくる。この「な」は文を終わらせる「な」(終助詞) でなく文の調子を整えたり、感動、余情、強調等の意を添える「な」(間投助詞「共通語の“ね”、“さ”」の役割) のことが多い。

…なあや／(…なあやい) (接尾語) {ゆんべは寒い事やった_____} 親しい間での会話。

…なっさ／(…なことないさ)

なはれ／(言葉の後につける丁寧語) {ごめん_____}、{おいで_____}

なぶる／(いろう、改修、改築) いなべでは「なぶる」を人をいじめたり、物をいろたりすること以外に改修、改築等にも使います。{ちょっと風呂を_____たいので、見積もりをしてもろてます}

なまか／(なまくら、きちっとしない) {おまえは_____やで信用できんわ}

にっすい／(とろくさい) {いつ聞いても_____話しばかりやで、いやだな}

ぬくたい／(温とい) {今日は_____ね} ぬくい、ぬくといは共通語　ぬくたい　は四日市でも使う。

ぬくとんばら／(ひなたぼっこ) {おばあちゃんは縁側でお針仕事と_____や}

ねき／(そば、近く) 地域によっては“にき”といいます。語源 (根際) {もっと_____へ寄って、よう見てください}

ねっから／(なかなか) {お客さん_____ござらんな}

ねや／(そうだね) {ゆうとったんや_____。そうじゃ_____} (接尾語)

ねんしゃ／(手間をかけることをいとわない人) {あの人は_____やで、仕事の仕上がりは綺麗や}
ねんじゃともいう。

ののこ／(木綿の綿入れ羽織) {今日はさぶいで、風邪ひかすとあかんで_____着せてやりなはれ}

は

はしかい／(機敏な、油断ならない) {あれは_____でな} このほか共通語で痛痒(いたがゆ)いときにも「はしかい」という。

はしくし／(ところどころに) {友達とおしゃべりしていたら、話の_____にあんたの事が出てきたよ}

はだてる／(段取りする、準備する) {秋の文化祭ぼちぼち“はだて”な間に合わんな}

はだはだ／(気が合わない) {なんや知らぬがあの人とは_____でうまいこといかんわ}

はつはつ／(かろうじて、どうにかこうにか) {終電車に_____間におーてよかったわ} 「かつかつ」ともいう。

ばっぽ／(甘い自家製のおやつ) いなべでも地域によって牡丹餅やがんたちの蒸し団子と違いがある。{いま_____やるで、ちょぼっとまっとてな}

はどる／(もてあます、困る) {あの仕事上手いこといかんで、いま“はどっとるん”やけど、なんぞええかんこないかね}

ひち…／(ひどく) 強調の接頭語 {_____くどい人や、_____めんどくさい仕事や} さらに強調するには「ひっち」とする。

ひどい人／(身体の丈夫な人、よく仕事をする人) {朝早よからよう働く_____や}

ひまずえ／(暇費え) {今日はえらい_____させて、うたてやったね}

ひろず／(がんもどき)がんもどきの別名「飛龍頭“ひりゅうず、ひろうず、ひりうず、ひろうず”{今日の_____はええあじやなあ}

へいをまわす・へーをまわす／(方向返換){もうちょこっと先に広いとこあるで、車の“へいを回して”きてな}柄(へい)は荷車(大八車)の梶棒、今は車の向き　舟言葉の“舳(へ)先を回す”という説もある。

へーをかます／(ごまかす、いっぱいくわす、だます){あいつの事は信用していたが大事な所で“へーをかまされた”}

へちがむ／(曲がる){この畝(うね)“へちがんどる”な}

へつる／(へらす、けずる、こぶる){そこの高い所の土、“へつってな”}

へんばり／(蜘蛛の巣){この家、空き家でないのに_____まるけや}

ぺんぺらぺん／(非常に薄い事)薄いことを言い表す“ぺんぺん”とぺらぺらした粗末な衣服の意味の“ぺんぺら”とを合わせて薄さを強調し、ごろ合わせをしたもの。{ご覧のように長い間に布団も____になりました}

ぼう／(追う){後の車が_____て来たので怖かった}

ほうかほうか／(そうかそうか)相づち{_____、東の川にすっぽんがおったか、えっ}

ほざほざしごと／(まとまりのない仕事){きんのは_____で１日はてて、なんもできんかったわ}

ほぜくる／(ほじくる、いろてる、なぶる){変わったもの見つけたので庭を“ほぜくり”回しているわ}「ほぜる」、「せせくる」ともいう。

ほた／(田のあぜ){区の新役員さんの最初の仕事は_____焼きです}

ぼっこ／(古くなった物){私の車_____になったけどまだまだ乗りますよ}「ぼっこい」ともいう。

ほっこり／(詳しくは){その話_____は知らんがな}

ほっこりせん／(体調がすぐれない、思わしくない){手術は成功したけどな、その後がな、あんまり_____のやがな}

ほとる／(むしあつい){今日はほんとによう_____なあ}四日市でも使用。

ほんでな／(それでな){きんのな、アウトレットへいったんやわ、_____}

ほんなもん／(そのようなもの){_____、ほっとけ}

ま

まこに／(真正直に){あいつの話は何ゆうとるかわからへんのやで、_____きくな}

またい／(確かな、本当の、うそではない){ちゃんとした証拠があるのでこれは、_____話や}

ままい／(まぶしい){西日が_____ので運転こわかった}

まめ／(すこやか)(原語は真実(まめ)・健全){_____にしとるか(元気にしとるか)}{_____なかね(お元気ですか)}　いなべでは産後のお嫁さんに対して「_____になってくれたね」とねぎらい、また病気全快で退院された時も「_____になってよかったね」と喜びの言葉としても使います。

まるけ／(まみれ、だらけ){汗____、泥____、借金____、ごみ____}まみれとだらけを合わせた言葉

まるかる／(丸く固まる)、{このひぼ、えらいかとう“まるかって”ほどけやせんがな}

まわし／(準備、だんどり){次の仕事の_____、はよしといてな}

まんぼ／鉱山用語で横穴式の井戸、間歩、間府、間風、アラビア語ではカナート、オランダ語はマンブウと言う。

みじょうけ／(箕またはそのような入れ物){ごみこぼしたんで、早よ_____持ってきて}

ま

むさんこ／(無茶、無鉄砲){いくら_____な事いうても、決め事やで変える訳にはいかんわさ}「むたい」ともいう。

むせこい／(むし暑い、憤(いきどお)る){今日は本当に_____日やな、夕立ちがあるかもしれんな}

むで／(向こう見ず){あんなもんにかかっていくて、おまえ_____やな}「むて」ともいう

むとおに強い／(くらべものにならないほどつよい){何処で覚えてきたのか知らんが将棋“むとおに強なった”な}

めどろい／(遅い、にぶい、のろい){“めどろう”て見ておれん}

めっそ／(目分量、だいたい、おおまか){あの橋の長さどれくらいかの？_____で30mはあるぞ}

めんめ／(めいめい){_____が自分の責任を果たすように}

や

…やに／(…ですよ)接尾語

やんね、そうやんね／(…ですね)

やってみやっせ／(やってごらん){やらんと悩んどるより、思い切って_____}

ゆいまくる／(しゃべりまくる、ふれまわる){あの人は、ある事ない事_____ので困った事や}

ゆんべ／(昨晩)ゆーべも三重県の方言、いなべでは「ゆんべ」が優勢。{_____は蒸し暑うて寝苦しかった}

よう来てね／(よく来てくれました){いつも忙しいと聞いとったけど、_____}

ようさん／(たくさん){今晩の寄合は_____の出席者やで、お茶“ぎょうさん”用意しとかなあかんな}他に「ようけ」ともいう。

よさり／(夕べ){明日の_____に寄せてもらいます}

よばれ／(ごちそうに招待される){あんたんとこの_____楽しみにしとるで}

ら

りゅうず／(精一杯、限界、龍頭){今の私には用立て出来るのは、これが_____ですわ}

ろっく／(平らに、平均に){代掻きは丁寧にして、田を_____にせなあかんぞな}「ろく」ともいう

わ

わやくちゃ／(乱暴、めちゃめちゃ、大変な状態){おまえはいつも_____ばっか言うて、だれもたい(相手)にせんわ}

あとがき

今回は73ヵ所の紹介から8ヵ所追加して81ヵ所を紹介、内容も充実しました。

方言に関しては前回の第3版と同様です。

いなべの方言は、かつての都（京都）から、鈴鹿の山々を越えてきた言葉。また、奈良に都があったときに、奈良から関ケ原へ抜けていく旅人とともに入ってきた言葉、さらにその逆の北陸から伊勢への道をたどる言葉などがあります。さらに室町のころから目立つようになってきた桑名からの言葉、これらがいなべの人々の気持ちをとらえて、今の方言ができたと思われます。

いなべの方言や言い回しは調べれば調べるほど、奥が深く、興味も増してきます。

これらの言葉がいなべの文化として今後も語り継がれるようにとの期待を持って編集しました。

本誌参考文献

■藤原町史　■北勢町史　■員弁町史　■大安町史　■員弁郡略史
■員弁史談　■三重県史　■三岐鉄道50年の歩み
■阿下喜町常用言語の根限解釈　■日本国語大辞典　　他

編集を終えて

私たちは、ボランティア団体「ふるさといなべ市の語り部の会」として市内各地の案内、市の広報活動のお手伝いをしています。観光に来た人だけでなく、いなべの人がいなべを知るという活動を進める中で、私たち語り部の共通した教材が必要になり、ふるさとの紹介を創り、地域の皆さんにも読んで頂いて来ました。前回第3版も大変好評で用意をした冊子がなくなってきましたので、今回、いなべ市役所商工観光課を始め「デンソーグループはあとふる基金」さん等たくさんの方々のご協力や、ご助言ご指導をいただき内容をさらに増やした第4版を作ることができました。関係の方々にこの紙面をお借りして、お礼申し上げます。

2019年3月17日、東海環状自動車道が大安インターまで延長され、市外の方々もますます、観光にお見えになるとおもいます。この時に当たりこの第4版ができたのは大変時宜にかなったことだと存じます。また、教育委員会などのご助力で小学生の地域学習の一助になればとも愚考している次第です。

初　版　2009年
第2版　2013年
第3版　2015年
第4版　2019年

一色　由紀　　伊藤　　忠　　伊藤　政義　　伊藤　美善　　入野　宣親
小川　善一　　片山　秀樹　　楠　　捷一　　小林ひろみ　　清水　美澄
清水　　實　　多湖すま子　　出口　保男　　樋口　平和　　藤田　修士
藤田　宣和　　山田　乙三　　山本たか代　　山本　安則
（五十音順）

交通のご案内

●お車のご利用

【名古屋方面から】

名古屋IC　名古屋西IC　桑名IC　いなべ市

35分　東名阪自動車道 20分　国道421号 20分

【豊田方面から】

豊田JCT　四日市JCT　新四日市JCT　大安IC いなべ市

伊勢湾岸道 30分　新名神高速道路 3分　東海環状自動車道 7分

【関西・北陸方面から】

最寄りのIC　関ヶ原IC　いなべ市

名神高速道路　国道365号 40分（養老町・上石津方面へ）

【大阪・伊勢方面から】

最寄りのIC　四日市JCT　新四日市JCT　大安IC いなべ市

伊勢自動車道　新名神高速道路 3分　東海環状自動車道 7分

【東近江市から】

東近江市　いなべ市

国道421号（石榑トンネル経由） 50分

●電車のご利用

【員弁町・北勢町方面へは】

近鉄名古屋　桑名　西桑名（北勢線の起点）　楚原

20分 近鉄（急行）　2分 改札を出て徒歩　35分 三岐鉄道北勢線

阿下喜（北勢線の終点）

12分 三岐鉄道北勢線

【大安町・藤原町方面へは】

近鉄名古屋　近鉄富田（三岐線の起点）　大安　西藤原（三岐線の終点）

30分 近鉄（急行）　25分　18分 三岐鉄道三岐線

●時刻等についてのお問い合せ

三岐鉄道 …… TEL 059-364-2141
近鉄桑名駅 …… TEL 0594-22-0045
近鉄富田駅 …… TEL 059-365-0300
三重交通北勢事業所 …… TEL 0594-72-2469

後援／一般社団法人 いなべ市観光協会　賛助／デンソーグループはあとふる基金

観光のお問い合わせ　一般社団法人 いなべ市観光協会　三重県いなべ市藤原町市場115

●いなべ市観光協会ホームページ https://ssl.kanko-inabe.jp/

300円